

「西郷どん！」と「西郷どん！」

－林真理子の「西郷どん！」－

久保田 瑞成

「Segodon！」 and 「Segodon！」

－「Segodon！」 by Mariko Hayashi－

Mitsunari Kubota

佐藤卓己氏は、『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店 2009, 5）で、「歴史小説を少年時代から愛読した私は、その魅力と意義を十分に認めるが、それは大学で学ぶ歴史学とは別である。歴史小説は確かに過去を舞台にしているが、登場人物は私たちが容易に感情移入できる現代人である。」と述べている。歴史上の人物西郷隆盛を林真理子という作家が、現在の時代特有の感情や思考パターンを過去に投影したものということか。

歴史小説の読者・視聴者として私たちが会おう歴史的人物は、一般的に史実といわれていることとの整合性を、時代考証という作業を経て、史実として理解し受けとめているのではないか。そうになっているのかという素朴な発想の元に、林真理子の雑誌掲載分と単行本とを比較してみたい。

Key Words: [歴史学] [西郷隆盛] [林真理子] [歴史小説] [時代考証]

(Received September 24, 2019)

はじめに

林真理子の「西郷どん」の初出は、角川書店の「本の旅人」2016年2月号～2017年9月号（以後「初出」）である。そして、2017年11月角川書店から「西郷どん！ 上製版」（以後「上製版」）として前編・後編の2冊の単行本として出版された。中園ミホ脚本で2018年のNHK大河ドラマに決定したこともあり、注目を集めた。

歴史小説に限らず、雑誌などの連載が単行本となるにあたり、構成や内容に違いが出ることはいつものことではあるが、歴史小説においては、ことさら一作者でどう変わるのか、初出（「本の旅人」版）と上製版（前編・後編）とを比較する。

1 歴史用語の変更 「（初出）→（前編or後編）／（前or後ページ）」の順に記載。

「西南戦争→西南の役／前4, 前10, 前13※後240, 後244, 後248, 後262」「禁門の変→蛤御

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科生活学専攻デザイン表現コース（〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号）

門の変／前5, 後66, 後80, 後81, 後87, 後89, 後90, 後91, 後114, 後140]「島妻→島女／前12]「外国船打払令→異国船打払令／前15]「正三位→従三位／前55]「軍役方掛→物頭／前58]「中小姓→中御小姓／前92, 前112]「軍艦奉行→軍艦奉行並／後65, 後99]「海軍操練所→神戸の海軍塾／後66]「奉行→軍艦奉行並／後68]「国父→久光／後105]「禁門の戦→蛤御門の戦／後107]「従三位→従四位／後188]「輿→鳳輦／後209, 後210, 後213, 後217]「県令→県権令／後243]

2 人名・地名に関わる変更 「(初出) → (前編or後編) / (前or後ページ)」の順に記載。

「下加治屋町は、ご城下の南→下加治屋町は、城下のやや西／前14]「満佐子→満佐／前15, 前28, 前32, 前38, 前40, 前41, 前43, 前47, 前49, 前59, 前78, 前80, 前82, 前84, 前85]「小吉さん→小吉どん／前15, 前16, 前29, 前30]「一蔵の父→正助の父／前18]「伊地知正治→伊地知龍右衛門／前18]「大久保一蔵→大久保正助／前18, 前42, 前44, 前55, 前56, 前96, 前97]「吉井友実→吉井幸輔／前18, 後65, 後120]「一蔵→正助／前19, 前21, 前62, 前64, 前96, 前111, 前159, 前160, 前161, 前164, 前171, 前209]「島津義弘→維新公(島津義弘)／前20]「義弘さま→維新公／前20]「加治屋町→下加治屋町／前22, 前36, 後211]「義久公, →義久公, 義弘公／前25]「歳久さま→歳久公／前26]「琴→お琴／前37, 前38, 前79, 前135]「伊集院兼寛→伊集院龍右衛門／前55]「吉次郎→吉二郎／前85, 前95, 前101, 前106, 前135, 前136, 前149, 前150, 後187, 後237]「一どん→久どん／前56]「一蔵→桂／前57]「一蔵じゃ→吉之助じゃ／前61]「吉之助さあ, 吉之助さあ→正どん, 正どん／前61]「大久保さあ→先生／前62]「吉之助→正助／前62]「由羅→お由羅／前65]「百姓→弥吉／前73, 前74]「おさむらい→西郷／前74]「兼寛→兼寛どん／前77]「俊子→須賀／前77, 前79, 前80, 前81, 前82, 前83, 前91, 前92, 前95, 前100, 前101, 前128, 前135, 前135, 前149, 前150, 後94, 後95]「お鷹→鷹／前85, 前135, 前148, 前149, 前151, 前152]「一子→於一／前87, 前88, 前126, 前126, 前127, 前130]「磯園→仙巖園／前90]「大久保の父→正助の父／前96]「お由羅さま→お由羅／前97]「大久保→正助／前97, 前98, 前160]「一どん→正どん／前98, 前162, 前163, 前164, 前219]「吉之助→西郷／前109, 後230]「吉原→品川／前110]「藤田さま→藤田殿／前123]「一橋慶喜殿→一橋慶喜さま／前124]「お殿さま→斉彬さま／前125]「松平春嶽(慶永)→松平(慶永)／前134]「慶喜さま→慶喜殿／前141]「慶福さま→慶福殿／前141]「はりす→ハリス／前144]「ぺりい→ペリイ／前144, 前169]「お安→安／前148]「磯別邸→仙巖園／前152]「お琴→琴／前152]「斉彬→お殿／前156]「利世→次右衛門／前161]「一蔵→正／前162]「御舎弟さま(久光)→御舎弟(久光)さま／前162]「北条右門→北条右門(木村時澄)／前164]「鹿児島→薩摩／前176]「橋本→左内／前176]「吉井幸輔→吉井／前180]「磯邸→仙巖園／前176, 前181]「井伊→井伊殿／前179]「井伊→井伊直弼は慶喜擁立派の／前180]「伊地知龍右衛門→伊地知／前180]「斉彬→太守／前181]「吉之助→自分／前181]「菊池様→菊池さま／前202, 前203, 前204, 前206, 前209, 前210]「大久保→正どん／前209]「井伊大老→井伊直弼大老／前209]「月照殿→月照さま／前218]「湾屋→岡前／後8]「斉彬→順聖院／後13]「松平春嶽→松平春嶽(慶永)／後13]「三郎殿→和泉殿／後32]「小松帯刀→高崎左京(正風)／後36]「海江田(信義)→有村／後37]「吉井友実→吉井幸輔(友実)／後37]「村田→新どん／後38, 後41]「鬼(喜)界島→鬼界島／後39, 後231]「小松帯刀→高崎左京／後40]「三郎殿

→三郎(久光)殿/後40」「会津中将松平容保→会津中将/後44」「三代さま(家光)→三代(家光)さま/後44」「一橋慶喜さま→一橋公/後46」「湊川神社→墓所/後48」「藤田→小四郎/後50」「吉之助→彼/後51」「一橋→薩摩/後51」「安房守(勝)→安房守/後65」「坂本→坂本龍馬/後65」「吉井友実は同じ齢で→吉井幸輔は一歳違いで/後65」「一橋殿(慶喜)→一橋(慶喜)公/後68」「阿部豊後守(正外)さま→阿部豊後守(正外)/後70」「五代友厚→五代才助(友厚)/後77」「磯屋敷→仙巖園/後77, 後124」「大久保→一どん/後80」「久坂さま→久坂はん/後84」「西郷さん→西郷さあ/後90」「西郷→吉之助/後90, 後114, 後145, 後165, 後188, 後189, 後196」「吉井幸輔(友実)→吉井幸輔/後91」「三条さまたち→三条卿ら/後92」「ふく子→ふく/後92」「糸子→糸/後93, 後94, 後95, 後130, 後131, 後159, 後184, 後185, 後186, 後187, 後188, 後191, 後199, 後200, 後236, 後251」「安房守殿(勝海舟)→安房守(勝海舟)殿/後100」「五代友厚→五代才助/後111」「井上馨→井上聞多/後112」「木戸孝允→木戸準一郎(孝允)/後113」「田中光顕→田中顕助(光顕)/後113」「おりょう→お龍/後118, 後119, 後120, 後121」「栄々庵→栄之尾温泉/後120」「祐宮→睦宮(祐宮)/後128」「松平春嶽(慶永)→松平春嶽/後134」「慶喜殿→公方さま/後143」「一橋はん→慶喜はん/後144」「坂本さん→坂本さあ/後148」「慶喜殿→慶喜公/後148, 後149, 後150, 後161, 後162」「慶喜殿は→将軍に/後149」「信吾(従道)→信吾/後159」「大山弥助(巖)→大山弥助/後159」「大久保一翁→大久保忠寛/後170」「天璋院→天璋院(篤子)/後177」「大久保利通→大久保利通(一藏)/後192」「一どん(大久保利通)→一どん/後193」「磯庭園→仙巖園/後198」「西郷隆盛→隆盛/後199」「伊藤博文→伊藤博文(俊輔)/後202」「板垣退助, 大隈重信→板垣退助, 井上馨, 大隈重信/後203」「大山捨松→山川捨松/後206」「鹿兒島城→鹿兒島城(鶴丸城)/後213」「尚泰→尚泰王/後215」「千葉大和田原(習志野原)→千葉大和田原(習志野)/後217」「大久保→大久保卿/後245, 後246」

3 年月日等の変更 「(初出)→(前編or後編)/ (前or後ページ)」の順に記載。

「二十四歳→二十五歳/前69」「五年間→三年間/前75」「二十五歳→二十六歳/前76」「3年→8年/前78」「四ヶ月後→三ヶ月後/前145」「昨年→一昨年/前147」「十四歳→十九歳/前148」「二年→三年/前151」「二日後→八日後/前157」「四月末→四月二十三日/前177」「七月十六日→七月十六日暁天/前181」「十日近く→八日/前181」「十五歳→十四歳/前189」「来週→来月/前191」「二十二歳→二十三歳/前192」「十日→ひと月ちかく/後4」「七日→二十日/後4」「二歳半→二歳/後7」「八月→八月十八日の政変/後47」「六月四日に→そして六月/後47」「一月二十二日→翌二十一日/後117」「一月二十三日→一月二十二日/後118」「九月→一方/後113」「慶応四年であり明治元年である年→慶応四年(明治元年)/後193」

4 話しことば, 特に鹿兒島弁への変更 「(初出)→(前編or後編)/ (前or後ページ)」の順に記載。

「あい→あいつ/後39」「あいのでしょうか→あいもすでしょうか/前94」「あいましょう→ありもんそ/前228」「あいもす→ございもす/前124」「あいもす→あります/後228」「あいもはん→ありもはん/前228, 後37, 後78, 後143, 後144, 後184, 後185, 後215」「おいもはん→おりません/後228」「あいもんそ→ございもんそ/後89」「あいもはんか→なかか/後95」「青白い→青白か/後232」「あたい前→あたり前/後39」「新しい→新しか/前54, 後27」「合って

おる→合っちょっ／前17「あなた→おはん／前81, 後186」「あの→あん／前30, 前41, 前42, 前44, 前53, 前56, 前169, 後13, 後107, 後231」「あられる→あられるっ／前56」「有難い, 有難い→有難か, 有難か／前132」「ありません→あいもはん／前30, 前37, 前38, 前43, 前174」「ありません→ごさいもはん／前30」「ありがたい→ありがたか／前68」「ある→あっ／前30, 前56, 前79, 前172, 前230」「あるでしょうか→あいもはん／前123」「あるのか→あつとか／前131」「あるまい→なかどな／前80」「あろう→じゃろう／前96」「あろう→じゃろ／前112」「あろう→あっじゃろう／後201」「あろうか→あいじゃか／前215」「あろうぞ→あっじゃろ／前92」「あんた→おはんは／前51」「いい→よか／前16, 前17, 前31, 前32, 前38, 前41, 前43, 前91, 前112, 前125, 前137, 後14, 後149」「言うぞ→言うでな／前132」「いうのか→いうとか／前124」「いうのだ→こっじゃ／前20」「言うのだらう→言っとじゃろう／前38, 前89」「いうので→いっつで／後16」「いうのは→いうんは／後45」「いかが→どげん／前136」「いかなとじゃろうか→いけないのでしょうか／後86」「いかなな→いかなどな／前98」「いくでござわん→いきもんそ／前91」「いけない→いけん／前21」「いうものは→いうもんは／前44」「いかなじゃろう→いかなとじゃろう／後40」「いけないことなのだから→いかなこっじゃでな／前21」「いきなさい→いかななね／前80」「行ける→行くと／前93」「忙しい→忙しいか／後92」「いた→おっ／後15, 後16, 後45」「いたら→おったら／後166」「行たっくれ→行っくれ／後108」「いっから→おっから／後19」「いっちょっ→言っちょいもした／後95」「いない→なか／前233」「いない→おらん／後43, 後45」「いないではないか→おりもはんどなあ／前84」「いないであろう→なかじゃ／前78」「いなかったが→いなかった／前108」「いなさるんです→いなさっとじゃ／前80」「いらした→いらっしゃった／前148」「いらっしゃるから→おらるっで／前90」「いらっしゃるでは→いらっしゃるとでは／前124」「いる→おっ／前20, 前89, 後49」「いる→おいもす／前96」前96「いる→おる／前112, 後46, 後143, 後233」「いるか→おっと／前138」「いると思うが→おるはずじゃが／前181」「いるの→おっと／前136」「いれば→おれば／前150」「美しい→美しか／前127」「うまいので→うまかで／後16」「うまかに→うまかど／前131」「産むのか→産むんとか／前40」「生むのです→生みもす／前38」「えんな→えんど／前99」「おあります→ありもす／前169」「おい→わし／後14, 後197」「おいか→おるか／前161」「おいが→おっが／後47」「おいたわしい→おいたわしか／後49」「おいでじゃ→おらるっとじゃ／前112」「おいもし→おりもし／前74, 後171」「おいも→おりも／前227, 前228, 後38, 後78, 後131, 後147, 後150, 後215, 後218, 後228, 後231」「惜しい→惜しか／前32」「教えよう→教えとど／後30」「おすごくごさいませ→お過ごしくいやんせ／後27」「恐ろしい→恐ろしか／後80」「おっしゃいますな→おっしゃらんでたもんせ／前156」「おっしゃった→おっしゃったとじゃ／前20」「おっしゃたのです→おっしゃたとです／前155」「おっしゃいます→おっしゃいもす／前44, 前126, 前172」「おっしゃるのか→おっしゃとですか／前170」「おっしゃるのです→おっしゃとです／前178」「おはん→お前／前220, 前231, 後14, 後23, 後192, 後200, 後201, 後207」「溺れる→溺るっ／前23」「おはん→お前ら／後38」「お前→おはん／前20, 前21, 前22, 前30, 前31, 前32, 前37, 前38, 前42, 前44, 前80, 前101, 前132, 前136, 後9, 後197」「おますよ→おます／後85」「思いもんでん→思いもすが／後180」「思ったのです→思ったとです／前43」「思ったのだ→思ったとじゃ／前128」「思わないかんぞ→思わないと

いけもはんで／前17」「思われたの→思われたと／前125」「おられなか→おられん／後16」「おられる→おられるっ／前56」「おられるのじゃろう→おられっとじゃろう／前229」「おりました→おりもした／後27」「おります→おりもす／前30, 後26」「おるでしょう→おっじゃろう／前77」「おれ→おい／前44」「折れて→折れっ／前43」「が→じゃっどん／前22」「返さなくてはなるまい→返さんといかん／前150」「かけるな→かくっな／前43」「囲もう→囲んど／前91」「賢い→賢か／後171」「貸しっくれ→貸してくれ／前163」「借っとか→借りっとか→前151」「通う→通っ／前36」「考えているから→考えちゃっで／前44」「から→で／前54」「からな→で／前210」「可愛い→可愛か／前149」「キエーッ！→チェストッ／前25」「聞いております→聞いちゃります／後119」「聞いておろう→聞いちゃっじゃろう／前20, 後46」「きた→きもした／前148, 後103」「来とっとじゃ→来たとじゃ／前228」「決められない→決められん／前156」「喰うて→喰ろうて／前51」「ください→くいやんせ／前81」「ください→くれ／前91」「ください→くいやったもんせ／前149」「ください→くだされ／前157」「くださいませ→くださいもんせ／前93」「くださったのです→くださいもした／前171」「くださるであろう→くれもんそ／前184」「口惜しさ→無念／後40」「くっつとでしょうか→くっじゃろかい／後80」「比べっこと→比ぶっこと／後13」「しらしめたいのじゃ→しらしめたかとじゃ／後17」「くる→くっ／前201, 後63」「苦しい→苦しか／前50」「くれ→くいやい／前232, 後47」「くれたのだな→くれたとじゃな／前132」「くれば→おれば／前150」「くれるでありますよ→くれっじゃろう／後37」「くれる→くれっ／後233」「くれるのは→くるっとは／前59, 前77」「くれるの→くるっと／前124」「け→こんか／後189」「こう→こげん／前82, 後10, 後45」「高じたの→高じたと／前30」「ここで→こころで／後261」「ここに→こけ／前81」「ここの→ここん／前229」「ございましょう→あつとでございもんそ／前155」「ございます→ございもす／前100, 後40」「ございま→ございも／前26, 前38」「ございません→ございもはん／前126, 前127, 後77」「ござらんか→ございもはんか／49」「ご自分の切腹覚悟です→むろん切腹を覚悟の上です／後40」「こつ→こっ／前215」「この→こん／前19, 前20, 前38, 前50, 前54, 前71, 前72, 前74, 前77, 前78／前79, 前81, 前85, 前92, 前93, 前97, 前100, 前101, 前104, 前124, 前130, 前152, 前155, 前163, 前229, 後26, 後27, 後28, 後71」「こと→こっ／前28, 前38, 前43, 前44, 前46, 前55, 前56, 前61, 前68, 前78, 前79, 前85, 前97, 前98, 前117, 前118, 前123, 前156, 前161, 前164, 前170, 前174, 前181, 前208」「こないのは→こんとは／前98」「これ→こい／前17, 後30, 前31, 前62, 前82, 前93, 前118, 前123, 前168, 後26, 後28, 後185」「ごわす→ございもす／前107」「こんと→こられんと／後78」「こんな→こげな／前19, 前47, 前51, 前62, 前112, 前117」「こんな→こげん／前68, 前185」「こんなに→こげん／前15, 前74」「さあ→どん／前56, 後187」「さあ→さん／後185, 後186」「下がる→下がっ／前87」「させる→させっ／前50」「薩摩ん→薩摩は／前19」「さない→さん／前74」「さま→さあ／後37」「覚めっような思い→覚むっような思い／前215」「され→し／前20」「されっ→さるっと／前196」「されると→さるっと／後63」「されんとですよ→されもはんど／後40」「しおった→しちよった／後192」「しおる→ちよっ／前17」「しかし→じゃっどん／前32, 前53, 前55, 前77, 前94, 前95, 前137, 前168, 前219, 後17, 後45, 後65, 後94」「地ごろ→地ゴロ／後14」「していた→しちょう／前148」「していたの→しちよた／前148」「している→しちよっ／前56, 前71, 前

96)「しておいもす→しちょいもす／前137」「自分→おい／前87, 前89, 前212」「しません→しもはん／前38」「しました→しもした／前74」「しもした→してしもた／後66」「しもっと→しもっとじゃ／後192」「じゃ→でござす／前57」「じゃあろう→じゃろう／前100」「じゃが→じゃどん／前90, 前168」「じゃがな→じゃ／前31」「じゃから→じゃが／後96」「じゃしか→でござすか／後102」「喋れるの→喋るっと／後26」「じゃっどん→ま, /後95」「じゃろうか→じゃろか／前149, 前215」「じゃろうに→じゃろ／前112」「出来もして→出来しもして／後113」「知っているところだ→知っちゃよところじゃ／前20」「知らぬ→知らん／前220」「しんどい→えらい／後85」「しれないこと→しれんこっ／後38」「しれぬが→しれんが／後19」「すつとでしよう→するの／後228」「捨てろ→捨てろち／前185」「する→すっ／前210」「するのだ→すつとじゃ／後13」「するつとじゃ→すつとじゃ／後25」「すんもはん→すまんこと／後92」「狭いから→狭かで／前42」「そい→そげん／後14」「そいも→そいもこいも／後45」「そう→そげん／前100, 前163, 前167, 前227」「そういう→そげな／前79」「その→そん／前20, 前21, 前23, 前31, 前42, 後29, 後205」「絶対にいけないのですよ→断じていけもはんどなあ／前16」「そうか→そげん／前30」「そうしたら→そげんしたら／前25」「そうじゃ→じゃ／前54, 前71, 前78, 前148」「そうじゃ→そうな／後82」「そうじゃろう→そうじゃ／前30」「そうです→そうじゃ／後95」「そうと→そっち／前52」「そうは→そげん／前57, 前112, 後40」「そげんしたら→そげんしちよったら／後96」「そして→そいで／前44, 前46」「そして→ほいで／前52」「その→そん／前56, 前59, 前118, 前125, 前137, 前155, 前161, 前219, 前227, 後110」「それ→そい／前20, 前38, 前40, 前43, 前46, 前49, 前50, 前53, 前54, 前56, 前77, 前79, 前89, 前93, 前97, 前110, 前113, 前118, 前167, 前173, 前174, 前229, 後40」「そんな→そげん／前30, 前56」「そんな→そげな／前46, 前57, 前62, 前71, 前118, 前162, 後15, 後17, 後44」「そんなら→それなら／前9」「そんなら→それでしたら／後87」「だ→じゃ／前20, 前21, 前22, 前30, 32, 前41, 前54, 前56, 前78, 前90, 前117, 前136, 前162, 前163, 後44, 後171」「だ→じゃっ／前20, 前59, 前85, 前162」「たい→たか／前181」「だが→じゃっどん／前41」「だが→じゃが／後11」「高い→高か／後26」「だから→じゃっど／前17」「だから→じゃっで／前50, 前78」「だから→じゃって／前80」「だから→じゃで／前110」「助かいもした→助かりもした／後29」「たの→と／後12, 後39」「食べる→食べっ／前50」「食べるから→食べちよっ／前71」「黙いおって→黙りおって／後41」「たまりません→たまりもはん／前136」「だらしない→だらしなか／後27」「足りない→足りん／前229」「だろうかねえ→じゃろうかねえ／後199」「違う→違っ／前162」「違うわ→違っ／前56」「力強い→力強か／前90」「ちよったら→ちよつたらなあ／前93」「ちよっではなかが→ちよっど／後230」「ちよる→ちよっ／後12」「ちよるわ→ちよっど／前52」「ちよろう→ちよじゃ／前53」「ちよろう→ちよっじゃろう／後80」「疲れただろ→疲れち／前30」「尽くしがたいもの→尽くしがたいもん／前20」「つくったもんを食べるか→つくったもん食べっか／前202」「つくってきた→つくちよつた／前131」「つくるのじゃ→つくつとじゃ／前163」「つらい→つらか／後88」「である→じゃ／前118, 後44」「ていた→ちよっ／前52, 前137」「ていた→おっ／後45」「ている→ちよ／前136」「ているの→ちよつと／前30／前78」「であった→じゃつた／前20, 前84」「であろう→じゃろう／前20, 前22, 前42, 前56, 前97」「であろう→じゃろ／前97」「であった→じゃつた／前30」「である→だ／後

47]「ている→ちよっ／前28, 前41, 前42, 前54, 前56, 前78, 前79, 前151, 前161, 前163, 前171, 後13]「であった→じゃった／前86]「であろう→じゃろう／前56]「ているの→ちよっ／前89]「出来ちよっ人間じゃ→できちよっとじゃ／後233]「出来る→出来っと／前127]「出来るのであるから→出来るっとじゃって／前112]「である→じゃ／前218]「であろう→じゃろう／前181]「ていた→ちよった／前219]「でした→じゃった／後97]「でしょう→じゃろ／後185]「です→でございもす／前123, 後94]「です→でござわす／後71]「ですか→じゃしか／前148]「ですし→じゃっど／前136]「ですよ→です／前174]「ですよ→じゃ／後16, 後28, 後90]「ではある→じゃ／後49]「てる→ちよっ／前164]「てるんじゃ→ちよっとか／前52]「と→ち／前74]「どいほど→どれほど／後13]「どうしたら→どげん／前85, 後50]「どうして→どげして／前40, 前44]「どうして→ないごして／前44]「どうして→どげんして／前95, 前127, 前157]「どうでしょう→どげんでしょう／後27]「どうなの→どげん／前124]「どうなりもんそか→どげんなたら→前79]「どげん→どう／後87]「通るな→通っど／前111]「どげんしたでござわすか→どげんしたとでござわすか／前2016]「どんな→どげな／前62, 前152, 前155, 後46]「ない→なか／前30, 前33, 前38, 前43, 前44, 前46, 前74, 前79, 前81, 前87, 前117, 前119, 前144, 前151, 前161, 前207, 前214, 後12, 後90, 後192]「ないことだろう→なかっじゃろう／前30]「ないの→なかと／前124]「ないのだよ→もはん／前21]「ないのです→でな／前81]「ないのですよ→もはん／前43]「ないもした→なりもした／後37]「ないもんか→ないもはん／前57]「ないやったら→なつては／後218]「なかじゃろう→なかでござわんそ／後169]「なかど→おらん／後149]「なかやろう→なかとやろう／前162]「なさい→もんせ／前28]「なさらない→なさらん／後15]「なさらないでくださいませ→なさらんでたもんせ／前156]「なさらないでくいやんせ→なさらんでくいやんせ／後40]「なつて→なりもして／前143]「なつている→なつちよっ／前125]「ならなか→ならん／後46]「なに→なんち／前74]「なのか→じゃとか／前117, 前124]「なのか→やっとか／後33]「なのだ→じゃっ／前168]「なのだろうか→なんじゃろか／前44]「なのでしょうか→でございもんそか／前171]「なのです→でございます／前156]「なのですか→じゃつたらうかい／前151]「なのですか→でございもんそか／前171]「ならない→ならん／前21, 前22, 前55]「ならないこと→ならなかこっ／前161]「ならぬ→ならん／前47, 後13]「なられました→なりもした／前129]「ならんとです→なりもはん／後12]「ならんとにのう→ならんとに／前74]「なりますかな→なりもんそかい／前157]「なりません→なりもはん／前21, 前38]「なる→なっ／前53, 前54, 前79, 前219]「なれるね→ねれどな／前15]「何ですと→なんごてですか／後39]「なんという→なんち／前66]「の→と／前15]「の→ん／前162, 後46]「の→と／前174, 後13, 後17, 後39, 後41, 後44, 後48, 後49, 後178]「のか→とか／前20]「のことというのは→んことは／後205]「のじゃ→とじゃ／前98, 前163]「のじゃとな→とな／後44]「のだ→とじゃ／前40, 前44, 前72, 前79, 後47]「のだから→もんじゃからな／前32]「のだから→とじゃで／後12]「のだから→とじゃって／後44]「のだから→たで／後45]「ので→で／前137]「のです→とです／前29, 前155]「飲ませて→飲ませっ／前30]「生えちよった→ころがちよった／後232]「ばかい→ばかり／前196]「恥ずかしい→恥ずかしか／前44]「働つと→働くつと／後22]「早いか遅いか→早かか遅かか／後201]「ひもじい→ひもじか／前50]「ひもじいこともある→ひもじかことも

あっ／前16」「深いところだ→深かところじゃ／前20, 21」「太い→太ない／前71」「ほしい→ほしか／前79」「ほど→は／前167」「ほどだ→とじゃ／後11」「ほんまに→ほんま／前176」「曲げないの→曲げんと／後47」「まことに→まっこて／前36」「ました→もした／前74, 前136, 後27」「ましても→もしても／前141」「ましよう→もんそ／前80, 前85, 前141, 前144, 前151, 前168, 後40」「ます→もす／前129, 前156, 前167, 前173, 後26」「貧しいのであろうか→貧しかとじゃろうか→前44」「ますまい→もはん／前137, 後14」「ませ→もんせ／前156」「ません→もはん／前167, 前174, 後26, 後185」「まとまっちゃっ→まとまっておる／後218」「守っていいやい→守ってくいやい／後251」「守るのは→守っとは／前21」「見苦しい→見苦しか／前59」「見たい→見たか／前113」「見つけたと→見つけもした／後93」「見てみい→見やんせ／前17」「見惚れっほど→見惚るっほど／前216」「みます→みもす→前93」「見られるんですよ→見られっつとよ／前80」「みるのだ→みっつとじゃ／前44」「みろ→みっ→前44」「向かい合っている→向かい合っちょっ／前20」「向かわれるの→向かわれっつと／前90」「むごい→むごか／前228」「めでたい→めでたか／前151, 後43」「申し上げもす→しもんそ／後256」「申しもんそ→お伝えしもんそ／前182」「申すっとか→言うっとか／後14」「もした→もして／後29」「持っておきます→持っちょいもす／前50」「もの→もん／前31, 前46, 前50, 前53, 前97, 前124, 前148, 前152, 前157, 前207, 前210, 前212, 後14, 後49, 後231, 後259」「ものだ→ものじゃ／前53」「者たち→国／後119」「ものであろう→もんじゃろう／前23, 前161」「貰いに話を→貰う話を／後199」「もらう→もろっ／後15」「もん→つと／前227」「もんやわ→もんやわあ／後144」「やいか→やるか／前160」「やって→やよって／前180」「やっておらん→やっちょらん／前58」「やっておるわ→やっちょっど／前113」「やめておこう→やめちょこう／前149」「ゆす→よし／後196, 後197」「よい→よか／前112, 前128, 前136」「よいだろう→よかろう／前155」「よいであらうか→よいじゃらうか／後11」「よいのか→よかか／後50」「よいのだ→よかとじゃ／前22」「よい, よい→よか, よか／前49」「よく→よう／前19, 前53, 前125, 後43」「よし, よし→よか, よか／前31」「よしなに→よしなにば／前136」「よね→けえ／前51」「嫁いじょったい→嫁になった／後94」「喜ばしい→喜ばしか／前174」「よろしく→よろしう／前80」「弱い→弱か／前72, 前125」「弱られたわ→弱られもした／前161」「られるのは→らるっとは／前124」「るの→つと／前138, 前219, 後15」「わかいもした→わかりもした／後21」「わかいもした→わかっておりもす／後42」「わかっか→わかっとか／後231」「わかった→よか／後30」「わかっておろう→わかっちょろう／前56」「わかる→わかっ／前42」「わかるのか→わかっとか／前118」「わし→おい／前42, 前43, 前58, 前59, 前77, 前78, 前79, 前93」「わしら→おいたち／前44, 前68, 前70, 前71, 前74, 前112, 後71」「忘れなかった→忘れんかった／後45」「わたくし→おい／前85」「私→おい／前20, 前32, 前38, 前89, 前136, 前171」「私ども→おいたち／前136」「笑われるような→笑われっような／前21」「我ら→おいたち／前56」「んだ→とじゃ／前80」「をされ→期待をばされ／前30」

5 西郷に関する説明や歴史的な説明 「(後編) / (前or後ページ)」の順に記載。

「(菊次郎) 叔父たちの顔を参考に描いたものなのです。父は生涯に一度も写真や肖像画をのこしませんでしたから／前11」「生まれつき体が弱かった。食も細い。母は鰯節を毎日煮出して与えた。・・・十歳になった頃には、小吉の背は父に届くほどになり、肩や背中にもがっ

しりした肉がついていた。・・・祖先の一人に異国の者がいたのではないかと・・・／前15」
 「そもそも女というものは、母親を除けば、こちらの心を与える価値のないものなのだ」(斉彬との初めてのシーン)／前26」
 「あん年になって、どげんして母上は子どもを産むんとか(子だくさん・貧乏の中での母親の出産)／前40」
 「女を抱くよりましじゃろう」(男色について)、猫のような声(母の性行為中の声)／前41」
 「その結果、子を孕むのだ。そしてこのように、ひもじがる子どもを世に送り出すことになるのかと思うと、吉之助はどうにもやりきれない。自分が立っている大地が、ぐらぐらと揺れ出したような気分になってくるのだ。(貧乏子だくさんへの感慨)／前42」
 「(斉興とお由羅との関係について、大久保から桂に変更し)一国の太守たるもんが、女ごときの言いなりになってたまるか／前57」
 「無類の動物好きである吉之助／前74」
 「おいに稚児趣味はあいもはん／前77」
 「吉之助と夫婦の交わりがないまま／前91」
 「夜、同じ褥の中に誘い、抱いてやればいいのだろうが、そんな誤魔化しはしたくないと、吉之助は激しく首を振る／前92」
 「わたしに恥をかかせないでくいやんせ(妻須賀の言葉)／前102」
 「吉之助は遠い故郷に向けて呼びかけている。しかしその中に妻はいなかった／前108」
 「西郷さあは女嫌いぞ／前110」
 「西郷さあは下戸じゃったな／前111」
 「斉彬について語ろうとすると、吉之助の目頭はじんわり熱くなる／前112」
 「もう故郷を必要としてはいけないのだ。自分は江戸に住み、斉彬の役に立つことだけを考えればいいのだと。／前136」
 「斉彬に見つめられると、吉之助は陶然とする／前144」
 「生涯不犯の誓いを立てたのである。一度も女と接したことのない自分・・・斉彬に男児が生まれるならば、自分は男としての機能をすべて捧げてもいいと考えている。／前145」
 「公家の男たちが揃って化粧し、お齒黒はもちろん白粉も紅もつけていた。老人も交じっていたが、頬紅を赤々とつけていたことを、吉之助は気味悪く感じたものだ。／前149」
 「写真などというもんは、異人が使う魔術のようなものと聞いたりもす／前157」
 「おはんに殿さまのことを話すと、すぐいきり立つとみなが言うちよっど／前161」
 「吸い込まれそうな、とよく表現される大きな目だ／前162」
 「一橋さまは、本当にすぐれたお方のございもんそか。我々が命運を賭してまで擁立申し上げるべきお方のございもんそか／前171」
 「写真などという薄気味悪いことをなされたので、そのような気弱なことをおしゃっとです／前178」
 「自分は切腹しなくてはならないのだ。斉彬の後を追って死ぬ。／前181」
 「おいは、そげな、男となどしたことなか／前183」
 「吉之助は練れてやわらかい月照の肌にくるまれていく。女さえ知らない自分が、どうして男とこんなことになってしまったのか。しかし後悔はないし、もちろん嫌悪もない。月照は自分に生きる力を与えるために、たまたま寝てくれたのだと思えば合点がいった。／前184-185」
 「固く手を握り合って二人を見て、役人たちは目くばせする。『西郷さあが、衆道という噂は本当じゃしたなあ／前186』
 「心中まで囚った月照上人を死なせて、自分だけ助かったことに苦しんでいたのでしょうか／前190」
 「いや、男色というのは当時の薩摩、いや九州南部ではそう珍しいことではなかったと聞いています。特に薩摩の稚児好きというのは有名で・・・／前190」
 「あの奄美に行って自分は生まれ変わったのだと。生まれて初めて女に愛されることで、人にとって何がいちばん大切かわかるようになったと。奄美に行くまでは、自分はただやみくもに突っ走るだけの若造であったと、父は私に語ったことがあります／前191」
 「だいいち菊池は近頃女嫌いぞと噂されているのである。／前201」
 「今までも妻にどうかと、何人かを送り込んで来たが、おいは生涯不犯を誓った身じゃ／前210」
 「おいは、まだ

女を知らん／前212「女というのが、こいほどよかもんじゃったとは／前214」「そいにおはんは抱いちよってまっこと楽しか。朝も晩も飽きっことはなか。女とまぐわうのはこいほどよかもんじゃったかと、目が覚むっような思いじゃ／前215」「おいはいっきに精がたまって、日に三度は愛加那を抱くことが出来とじゃが、こいは少しおかしかこっじゃろか／前215」「おいは女を愛加那の他には知らん／前215」「おはんはあんお方に似ちよっ／前216」「おいは守ることが出来んかった。一緒に死のうとしたとに、おいだけが生き残った。そしておいだけがこん島におっ。思えば、井伊が大老になった時、順聖院さまはすべてを予感されちよった。あの偉大な順聖院さまは、すべてのことがわかっておられた・・・／前218」「愛加那の長い髪を指にまきつけながら、吉之助はつぶやく。／後10」「今度のことは、旦那さまらしからぬこととございますなア／後18（愛加那の言葉）」「人というのはサイコロのようなものではありませんまいか。・・・旦那さまが神のように思う順聖院さまは、天が寄こした何万べんに一度の方で・・・十べんに一度出るような和泉さまが薩摩を動かしておられるとしても、仕方ないこと・・・ここは覚悟を決めて、十べんに一度の人にお仕えするしか仕方ありませんでしょう／後19（愛加那の言葉）」「おいは順聖院さまのためなら何度でも腹を切っ。じゃっどん、和泉殿のためなら出来ん。／後20」「国とは生きたいと思う者の集まりなのだ。それをすべて肯定することから政治というものは始まるのだ。／後23」「あのらっきょう野郎が！／後31」「家人はアイヌよりいかん。アイヌは「まだ売り買いされることはなか。人が人を売ったり買ったりすることが許されてよかもんじゃろか。こいではめりけんの、黒い肌の奴隷と同じことではなかか／後35」「こいだけの薩摩の危機じゃ。いたしかたなか」今回だけは目をつぶろうではないかと心を決める。ひどく嫌な気分になり、その後は珍しく飲めない酒を飲んだ／後35」「三郎（久光）殿はおいのことを嫌い抜いておるようじゃ。さらにお嫌いになることじゃろう／後40」「これを町に運ぶぞ。焼け出された者たちにすぐに配るのじゃ」吉之助は休憩をとる間もなく、自らも大八車に俵を載せた。／後61」「吉之助は、舞妓、芸妓の類いにはいっさい手を出さなかつた。／後82」「お虎はおいにとって、よか女じゃ。やさしくて頭がよか／後83」「稚児好きでもよかよか／後93」「吉之助は心に鬱屈を持つ女が苦手である。無邪気に明るい女、ととえ大層肥えていても、いつも笑っているお虎のような女が好みであった。しかし京の仲居を娶るわけにはいくまい。よく考えれば、藩の御側役を務める四十近い男に、妻がないことは不便であった。跡継ぎの問題もある。奄美大島の菊次郎はいずれ引き取るつもりであるが、鹿兒島で養育する母も必要になるだろう。正式の跡継ぎもまだ自分をつくっていなかったのだと吉之助は思いあたる。／後94」「思わず怒鳴った。屈辱とさえ思える。自分たちは、たとえ幼い時であろうと女と同じ場所で遊んだことはない。ただの一度もだ。／後95」「西郷さんのその目でじっと見つめられちゅうと、まるで女のように照れてしまうき／後102」「吉之助は自分が皮肉やあてこすりを口にしたことがないので、他人に言われても全く気づかないのだ／後113」「同盟のことは、木戸が頭を下げるのを待っていた。・・・そんな自分の心を卑しいと思った／後117」「女連れでやってくるとは少々鼻白む／後119」「西郷さんのふぐりを見たら、鞠のようなが。わしはこんなもんを見たことがないき。おいのふぐりな・・・今や薩摩の名物になっていて、一緒に風呂に入った者はみんな、ははーと頭を下げてくれもんそ／後121」「一年もたたないうちに齊彬は急死した。ますます吉之助は写真嫌いになり、撮らせたこともなければ、写真機の近

くにも寄りつかない。中でとんでもないまやかしが行われている気がするのだ／後136「吉之助は鰻が好物である／後137」「鬼にならんと出来んこともあつ／後153」「覚悟を決めたならば、妾という最も俗なものは捨てるべきである／後166」「金で解決がつく女とは思いたくなかったので、小刀を置いてきた。自分の形見と思ってほしい。思いたくなければ売ればよいのだ／後167」「自分はどうしても西洋人が好きになれない／後207」「農業だけは誰も不幸にせん。農業こそは、魂の産業じゃつでな／後207」「写真などを撮らせると、必ず災いが起こりもす。私の主君、斉彬さまもそうございました／後216」「アジアの国はみんな同じじゃ。おいたちは手をつないで、鉄の国のヨーロッパに立ち向かわなくてはならんとじゃ／後233」「おいはこん薩摩から、百姓をする国をつくるつもりじゃ／後233」「父はとても器用なたちで、味噌を上手につくることが出来ました。うどんも自分でこねます。養母の糸さんが好物のカボチャの煮付けなどをつくりますと、「こいは大層うまくこさえたなあ」と手ばなしで誉めるので、まわりの者たちは驚いた言います。薩摩の男、ましてや父のような立場の男が、人前で妻を誉める、などということは考えられなかったからです／後237」「農業こそが国の基である、という父の考え／後238」「あの頃父はまさしくあの独立国の天皇だったのですよ。父は王国を守り抜くために、外からの誘いをいっさい拒否しました／後242」「不平や不満はというもんは決して力になりもはん。それで始めた戦いは必ず負くつとじゃ。不平と不満は、人間の持っている卑しかもんどわす。そいを戦に使ってはいけもはん。・・・もっと貴かものために戦をしもした。／後245」「西洋の畑というものはたった一人で耕さなくてはならん。じゃっどん米というものは何人かで苗を植え、刈り取り、そいを干す。力を合わせ、互いが相手のために尽くすということを、米づくりを通して自然に行っておつとが日本人じゃ／後247」「刺客を送るなどと、一どんがそげなまわりくどかことをすはずがなか。ひと言手紙で『死ぬ』と言えばそいで済むこっじゃ／後249」「こげな暴挙を許してしまつて、おいはもう、天下に合わせる顔がばか／後249」「区切りにいる者は死ななくてはならん／後262」

6 追加 「(前編or後編) / (前or後ページ)」の順に記載。

「わたしは父と共に西南の役に行き、父と共に死ぬつもりでした。しかしこうして右脚を失っただけで済んだのです。私がこうして生きていることについては、いろいろな意味があるのですが、今までに人に語ったことはなく、あなたもほとんど何も知らなかったはずです。しかしこうして父のゆかりの土地に来ました。私ももう若くありません。／前13」「ゆるやかに流れる川は、子どもたちの絶好の遊び場だった。／前14」「おじじさま／前16」「少年たちは読み物も大好きだ。十二月十四二値の夜は、赤穂義士の討ち入りの物語『義士伝』を、皆で徹夜して読む。／前17」「陽明学や洋学をおさめた彼は、／前18」「しかも母親は皆吉鳳徳という有名な蘭学者の娘だ。郷中の子どもたちを歓迎してくれた。／前18」「多くの／前20」「斉彬さまは先々代の重豪さまとよく似ていらっしやる。あの頃のご城下はとにかく金がなく、さむらいさえも飢え死に寸前じゃった。そいを調所殿をお取り立てになつて、財政を再建したとじゃ。調所殿は茶坊主上がりじゃつでとやかく言う者も多かた、とにかく」「約七十五キロ／前32」「小吉は毎晩のように、正助の家に向かう。・・・おはんたちももっと学問に励まなくてはならない。」(正助の父次右衛門とのやりとりで、調所の改革について41字35行)／前33～34」「(吉二郎)／前35」「四書五経→『四書五経』／前35」「むこう脛→脛／前35」「郡奉行の下につく書記のこと

である／前40「深い心の繋がりを求めるあまりの行為ということもある。／前41「竜助／前40「吉之助さあ、おいたいのような者は、ずっと貧乏のままかもしれない。・・・つらかお役目じゃ。(41字6行)／前42「郷中では二才の赤山に、劍の教えを受けたこともある。赤山は吉之助に目をかけ、大層可愛がってくれた。／前58「公儀に厳しく、／前60「責を負って／前60「吉之助は必死で戸を叩いた／前61「有馬のところで／前62「親藩／前65「西郷どんの樽じゃ／前71「長い距離を／前107「もんせ／前85「新どんなど飼っちゃった鶏を売った。／前96「將軍家に／前124「時→時勢／前124「二年前のことである。／前135「米→米や芋／前138「政について／前139「(蓬軒)／前139「我らが斉昭公の御子／前140「、こうもはっきりおっしゃるとは思っていなかった。／前141「老人や／前150「石んごと／前157「いつも／前157「古いもので／前169「この養女に／前173「関東の形勢が逆転したことを知り、／前180「ご墓前で／前181「急逝した／前182「奔走／前184「日米修好通商／前184「道中の／前184「すべり／前186「この島の住民になると言っているものの、手紙が届いた時の動揺は今も変わっていない。／前217「勝手にめりけんと条約を交わして国を売った。そして／前218「正助あらため、／前228「一蔵は久光から賜った名である。／前229「皆が帰って／前229「今は／前229「いつか／前232「順聖院さまは／後14「(いったん)は／後17「討手となった同じ／後22「土持さあに／後26「だけ／後26「制度／後35「藩政府／後42「京都守護職／後43「主上は／後44「和宮さまをおもらいになり、／後45「会津中将さまの／後45「招じ入れ／後48「公武合体を目指した／後50「しかし禁裏御守衛総督をつとめる一橋慶喜は老獺である。薩摩藩のいわば“主家”である近衛家に説得を依頼した。／後51「主上のお心である。長州を討つべし」と言われれば逃れる術はない。／後51「それは→その目的は討幕ではなく、／後53「長州がまず禁裏を占拠しようとしたため、／後54「吉之助は休憩をとる間もなく、自らも大八車に俵を載せた。／後61「今回／後62「長州をおさえるためにも、／後64「中浜万次郎を別にすれば／後65「藩命で／後65(幕命の誤り)「幕府も／後70「五人の若者のうち／後73「の尻ぬぐい／後74「そして、勝の言うご会盟を実現するために。／後74「渡航／後75「薩摩藩主へ／後81「財政難で／後87「総督は／後88「お気の毒ながら／後88「「わかりました」糸は深く頷いた。「菊次郎さんもきっと私が大切に育てていたしです。お約束いたしです。」／後97「彼らは／後97「第一次征長の処罰として、藩主父子の服罪を求めた幕府に対して、長州藩が反発したためである。戦はまだまだ終わりそうにない。／後106-107「龍馬に／後110「海の向こうにも／後111「瀬戸内の／後112「九月、／後112「京から／後113「翌日、西郷から口火を切った。・・・お互い自然と沈黙が続くようになった。(41字26行 長州に十万石削減、藩主父子の江戸行きなど具体的な提案に対して、木戸が反発し幕府と戦う決意を示す)／後114-116「朝敵とされ、苦しい立場にいるのは長州であり、吉之助から同盟の話を持ち出すなど、薩摩藩としてあってはならなかった。国父・久光も納得しないであろう。／後117「薩摩も実は斉興公のときフランス式の軍制をとり入れ、斉彬のとき、フランス軍艦購入の契約をしていた。しかし久光によってすべてが消えかけていたのである。／後122「、シェリー酒／後124「極秘のうちに／後147「すべて／後149「それに、徳川は多くの兵と領地を有したままじゃ。奉還とは名ばかりでこんままでは何も変わらん／後149「江戸に下って／後153「兵力でいえば徳川の方が数は多い。／後157「後で聞く

と、なじみの芸妓につくらせたものらしい。／後158「旧幕府軍の敗走で／後159」芸妓で出てはっても、／後166「いつまでも／後167」吉之助は驚いて声をかけた。／後168「どうか／後169」徳川の家を／後177「かつての／後179」城も／後179」家族を／後188「から二番目に低い／後188」改革が／後193「鳥羽伏見で／後195」今回、大久保が「どうしても彼を連れて行くと言い張ったのだ。／後204」法律や／後207「や綿／後207」帰って／後215「どうにか／後221」ロシアと／後224「便所もなくみんな垂れ流しじゃ。／後232」そうです、十三年前、沖永良部島で泣きながら父を見送ってくれた操少年が、医学生となって鹿児島にやってきたのもこの頃です。このことは父をどれほど喜ばせたことでしょうか。彼は明治九年に島に帰ったので、西南の役に巻き込まれることはありませんでした。／後「まず／後241」幹部／後248「父の縁戚にあたる／後250」山に囲まれた／後257「新政府軍の／後253」

7 削除 「(初出) → (前編or後編) / (前or後ページ)」の順に記載。

「後に、／前14「彦吉も／前16」金がない薩摩藩は、／前17「のだ／前24」この年／前35「(祖父を医者にかけられないことについて)／前43」夜が明ける前・・・やってくるのであろうか。(誓光寺での座禅についての無参禅師との問答前半)／前46「乳がよく出ず、生まれた竜助はもらい乳をするほりであった。／初出第3回」吉兵衛は、島津氏の一門で水引村を治めている日置家の経理を長いこと手伝っていた。その関係で借金を承諾してくれたのだそうだ。／前48「こいがが百両・・・南の国であった。／前49」殿に御舎弟のこっ→御舎弟のこっを殿に／前55「そろそろ／前55」五十になる→五十を過ぎている／前55「一歳も父と同じように／前56」隣の部屋では、家族や親族たちが泣きながら経を読んでいる。／前58「ぐっしょりと／前59」戸を／前61「いつのまにか吉兵衛も後ろに立っている。／前61」そもそも／前64「追っ手の網をかいぐって／前67」霜の上／前68「言えば→申し出れば／前69」米に替えてしまいす。／前70「米に替えてなんとか／前70」迫田さあ、これでも・・・百姓を救ってくださるにきまっちゃいもす(20字47行)／前72「に近い地方／前74」吉之助は以前／前77「教えたこと／前77」まだ幼い少年であった／前77「だと申す／前78」孫である／前88「、英国／前89」中には、自分の飼っていた鶏を売り払った者もいるということだ。／前96「これは朱子学の基本である・・・悪人を討つことであろう。(20字11行)／前116」次に小石川に行ったのは三ヶ月後である・・・この時の東湖の言葉は、吉之助の一生の宝物である。(20字89行、東湖と有村、西郷の酒宴の中での『“理が人を殺す”についての“理”についての東湖の話しに感激に嘔吐した西郷に、東湖が“丈夫”と言う。』／前123)「しばしば／前123」訪れるようになった→訪れた／前123「あまり／前126」よいか／前126」廊下での「お通り」はあったものの、こうして声をかけられたのは初めてのことであった。／前130「が、何分慣れておりませんので、このようにおぼつかない手つきで・・・。／前131」姫君ご婚礼の準備で、／前135「とは、／前135」のである／前136「たまたま／前137」そして／前139「五日後／前141」が出来る／前141」になったばかり／前148「の砲弾重量／前152」石粉を溶かし、さまざまなものを加えて、新しい色をつくることに夢中になった。／前153「きやまんグラス／前155」その後、斉彬は／前156「自分の／前168」でしょう／前169」しかし、と続けた。「我々はもう行動を起こさなければなりません。そうしないともう間に合わないかもしれないのですから。ですからこの行状記には、一橋さまがいかに秀れた英明な方か、それを

書くつもりでございます。」／前172「いずれ／前173」「へえー／前176」「お前と同じようなことを言っておられる」／前177「が／前177」「なんとかなるであろう／前180」「これらの知らせが薩摩に届いたのは、斉彬の死後であった。／前180」「故郷で見知った者たちだ。さっそく酒盛りということになったが／前180」「が、／前184」「助役の／前187」「私が／前187」「恐ろしいのは／前197」「兄も口には出さないだけで、本当は自分がアングになることを望んでいるに違いない。／前200」「少しふやかした後／前」「(大久保一蔵)／前219」「[それでは一度、砂糖小屋にいらしていただけませんか] ユカリツチュは言った。・・・自分は人を動かすことが出来るのだ。(20字115行、砂糖小屋で黒砂糖が出来るまでを見て、圧搾機を馬で動かすことや木輪で絞っていることの能率の悪さを鉄輪を導入することで解決できたことで、為政について自信を持ったこと)／前229」「[うむ。早く搾れるだけではなか。鉄輪なら砂糖きびの無駄も少なくなるとじゃ]／前229」「に行かれる／後5」「どうか／後6」「菊草の首のすわったのを確認するやいなや／後6」「二度の／後7」「順聖院さまとはまるで違っ／後14」「の小男／後14」「皇女／後17」「牢に入った時／後21」「そして／後24」「西郷先生は、まれに見る偉丈夫と聞いておりましたが、／後27」「先生の／後27」「岩屋での／後28」「もの／後28」「天候、時間とも変わらぬ、／後30」「戻したいのは山々であるが、大久保はもはや吉之助の名を、二度と舌にのせるものかと決めていた。／後36」「(忠義)／後37」「いつのまにか／後40」「お吸いになっていた煙管をガリリと噛んだとも言われておりもす。／後40」「よく／後43」「ですから／後43」「の者／後43」「京に残った者たちで新選組をつくった。／後45」「のこと／後47」「伊地知正治や吉井友実・・・この貴公子を上役に任せ、(20字10行(島津珍彦上坂のこと)／後47)「者だ／後48」「の者たち／後49」「吉之助はふと、”安政の大獄”で殺された橋本左内の言葉を思い出した。藤田東湖に心酔する吉之助にこう言った。「斉彬さまが、私のところに来るように言ったのは、あなたから藤田殿の毒を抜くためだったのかもしれない」いま長州にはあの毒がすっかりまわってしまったようだ。自分たちだけが正しく、自分たちだけが世の中を変えられるのだという考えにこり固まっている。そのありさまはとても尋常とは思えない。「長州を討とう」決めた。／後51」「が、禁裏御守衛総督をつとめる一橋慶喜は老獺である。薩摩藩のいわば”主家”である近衛家に説得を依頼したのだ。1「主上のお心である。長州を討つべし」と言われれば逃れるすべはない。／後55」「このまま一気に討幕へと向かう。／後55」「長州が恠いこがれている天皇は、彼らのことを忌み嫌っているのである。／後55」「そろそろ／後56」「必ず／後57」「来島の死は、長州の兵をも目ざめさせた。／後59」「のであった／後59」「兵士たちはなすすべもなく、その行方をじっと眺めていた。兵書で学ばなくても、町屋の火事は戦禍というもので、仕方ないことであると誰もが思っていたのである。／後60」「そして早いうちに、長州を徹底的に潰さなければいけないと決心していた。／後62」「どうにかして一日も早く長州という藩を消してしまわなくてはならない。私はそのために最大の努力をするつもりだ。／後64」「まずは長州の息の根を止めなくてはならない。そのために私はどんなこともするつもりだ。／後64」「土佐の坂本龍馬とも大層気が合ったようだ。今では連れ立って京や大坂に行く仲である。／後65」「[さあ、おあてなさい]初めて会う勝は、気さくに座布団をすすめてくれた。／後67」「島津の／後67」「その夜しばらく吉之助は寝つけなかった。ご会盟と勝は言ったが、吉之助にはそれが斉彬が口にしていた雄藩連合と同じに聞こえるのであ

る。／後72」「の若者／後73」「弓と／後74」「「亡きお殿さまと同じではなかか」／後76」「今、長州を叩けば、幕府、すなわち慶喜と、会津、桑名の力がさらに強くなるに決まっている。／後81」「夜／後82」「本当に／後83」「そこへいくと／後84」「がしたこと／後87」「ほんで／後103」「どういう話になっているのか、／後105」「(忠義)／後112」「武士ではない。が、／後114」「松陰門下での／後114」「天皇に対する狂おしいほどの思いを持ちながら、／後114」「次に日もその次の日も……、とまで考えるようになった。(20字12行 木戸との交渉が全く進展せずこのまま決裂しても仕方がないか)／後114」「左手にかなり大きな傷を負っている。／後118」「おりょうは／後119」「月が変わってから／後120」「朱子学の種子がちょうど花開く時代であった。／後127」「ほっそりとした／後131」「先に／後134」「あれ以来／後136」「謹慎中の／後147」「既に用意してあった／後148」「吉之助は腹が立って仕方がない／後148」「自分の／後160」「そやけど／後167」「やがて吉之助の声がした。／後168」「箱根を占領した後、／後169」「やがて／後173」「二度目に／後183」「後妻の／後187」「面白いことに／後195」「そして／後196」「(もうよいでしょう)／後196」「戊辰戦争後、吉之助はさっさと鹿児島に帰って来た。／後196」「かつての／後196」「あろうことか西郷は正三位という栄誉を与えられた。知藩事となった元藩主である息子も、国父と呼ばれる自分も従三位である。／後197」「対し／後197」「(それでよいでしょう)／後197」「が、そんなことを／後198」「彼も／後200」「して／後200」「ございもす／後201」「ろう／後201」「そして／後210」「あなた様／後215」「という／後221」「いつのまにか吉之助は征韓論に破れて下野したことになっていた。／後230」「一度も／後232」「西郷／後234」「助役の／後234」「自炊の出来る木賃宿のようなところです。／後242」「もし起こったとしても自分が出ていきさえすればすぐに説得できると考えていたようです。／後250」「ここで／後251」

8 ことばや文章の移動

「洗濯物も別にし、干す時も畳む時も男と女を別にさせるのは、→前21、2行前に」「新年初めの勝ち抜き戦→新年の勝ち抜き戦／前25」「おはんのお父上→おはんもつらからう／前98」「それは自分の離縁のことである。四日前→自分の離縁のことである。それは、／前135」「親戚方々→方々の親戚／前150」「十一代さま(家斉)→十一代(家斉)さま／前168」「御台所さま(篤姫)→御台所(篤姫)さま／前173」「もうあんたはんは→西郷はんはもう／前182」「出来る海に囲まれ、海を見て→出来るが、海に囲まれ海を見て／前210」「わずかに盛られる飯にも→椀にわずかに盛られる飯にも／後22」「まだ若いのが名門の出で、→名門の出で、まだ若いのが／後36」「近藤勇、土方歳蔵、芹沢鴨→芹沢鴨、近藤勇、土方歳三／後45」「国父さま、越前→国父さま、会津中将／後46」「西方にも、薩摩と同じように→薩摩と同じように西国にも／後46」「「さあ、御所に走っと」吉之助は声をさげた。／後51」「吉之助は彼らに守らせながら、鉄砲隊を前に前に→吉之助は鉄砲隊を彼らに守らせながら／後57」「吉之助に言わせるとまるで心のないお方だ→吉之助に言わせると心のないお方だ／後98」「彼はもう吉之助や大久保のしていることに反対は→彼は吉之助や大久保のしていることにあえて反対は／後134」「吉之助は岩倉が慶喜から千両借りていることを知っている→岩倉が慶喜から千両借りていることを、吉之助は知っている／後160」「岩倉と大久保→大久保と岩倉／後164」「滑稽な笑ってもいい→笑ってもいい滑稽な／後168」「兄を江戸に行かせようと、……誰よりも兄吉之助を尊敬し→兄吉之助

を江戸に行かせようと、・・・誰よりも兄を尊敬し／後187」「少年のそれと大男の手→少年の手と大男のそれ／後190」「麴町三年町の旧二本松藩邸だった→旧二本松藩邸だった、麴町三年町の／後195」「ちょうどおはんが帰ってきて→お前が帰ってきてちょうど／後200」「大阪、京都→京都、大阪／後213」

9 文章や言葉の変更 「(初出) → (前編or後編) / (前or後ページ)」の順に記載。

「あいがとう→ありがとう／後168」「あいつらん→異人はんの／後85」「会津→会津藩／後182」「会津藩の下に組織→お預かりに／後43」「あいうじゃ→あるようじゃ／前94」「お帰りやす→おきばりやす／後169」「赤兄→赤子／前163」「上がって→上げて／前129」「あがめる→崇める／前53」「明るい男で、→明るい男だ。／後65」「呆れて→感心して／後156」「悪友→親友／前42」「明け方、→日が出るまえに／後260」「あげた→うちあげた／後198」「上げろ→見せよ／前105」「あじあ→アジア／後218, 後224, 後225, 後233」「明日→未明／後259」「温かく居心地がよかったからだ→温かかったからだ／後187」「新しい妻は→園は／後187」「後の方→あとの方／後65」「あなた→旦那／後18」「あなた→あなた様／後27」「兄上さま→兄上／前93, 後187」「兄さあ→兄上／前35」「兄のための→兄を迎える／後37」「兄はきっと帰ってくれる→兄さあはきともどってくる／後237」「あなたたち→あなた方／後70」「あなた→旦那はん／後167」「あの方→あのお方／前124」「あばた→痘痕／前100」「あまり→さして／後159」「あめりか→めりけん／前157, 前163, 前169, 前176, 前220, 前230, 後35, 後68, 後69, 後70, 後71, 後72, 後76, 後78, 後79, 後80, 後84, 後103」「あめりか→アメリカ／後225, 後228, 後232, 後233」「アメリカ→めりけん／前19」「アメリカ→あめりか／前114」「あめりかやふらんす→あめりか船やふらんす船／後51」「有難い→かたじけない／後157」「あんお方→あん方／後48」「アンゴ→妻／前210」「あんた→お前／後199」「あんべらんめえ→あのべらんめえ／後65」「いい→よかった／後40」「言いだしましたかね→言いはるやろか／後166」「いいとの→よかと／前112」「いいほど→いわれる／前40」「言いますわ→言うてます／後84」「言える→申せる／前126」「家を建てて二ヶ月後→新居に引っ越した翌日／前232」「いかい→いかつい／後84」「怒りの声→不満の声／後241」「いかん→あかん／後84」「行きましょか→行きまひよか／後138」「戦の初戦を始めるのだろうという予感がした→戦の序盤である／後51」「行くな→よしな／後143」「異国の→異国との／後69」「維新→御一新／後193, 後200, 後203, 後204, 後221, 後225, 後226, 後235, 後244, 後246」「いさかい→諍い／後203」「いた→いる／後39」「板垣さあ→板垣さん／後230」「いただければ→もらえば／後162」「いたため→いたので／後237」「一蔵は中肉中背の体つきをしているが、身体→正助は長身で、体／前160」「一蔵たち→一蔵／後12」「一度→ひとり／後19」「一度お会いになり、頼りになるお方→やはり次の公方は一橋殿／前124」「一文字三星→「一文字三星」／後57」「いつか清も、ろしあも下すことが出来る→いつか清と、ロシアと対抗することが出来る／後228」「言った→宣言した／後200」「いったら→去ったら／前221」「いったら→ゆうたら／後83」「言ったんですが→言ったのに／後143」「二基四窯→一基二炉／前152」「一枚だけの→一枚きりの／前214」「言って→いって／前119」「言っている→息巻いている／後107」「命のとおり→命を守り／後58」「命をもって→命にかえて／後90」「今の小ノ島の言葉も、おそらく幾島のものに違いない→小ノ島は諭すように語った／前174」「今まで→以前／前143」「今政権を返したところで、朝廷に→政権を返したところで、今

の朝廷に／後149」「今の世の中→このご時勢に／後99」「芋やネギ→芋や蕎麦／前99」「いらした→おられた／前218」「いらして→お移り／後92」「いらつかせる→苛つかせる／後64」「いらっしゃり→おられ／前143」「いらっしゃる→られます／前123」「いる→いた／前185」「いるのである→いるかのようだ／後55」「言わせない→呼ばせない／後36」「言われ→いわれ／前24, 後49」「言われ→言い／前141」「ういーん→ウイーン／後217」「上から→坂の上から／後256」「上さま→上様／前167, 前173, 前174, 後149」「上様→將軍／後12」「午次郎となる→午次郎とつける／後199」「うかつ→迂闊／後3」「打ち壊し→打ちこわし／後86」「打つことが→打つことぐらい／後256」「移る→入る／前132」「領いた→ひとりごちた／前141」「生まれ→出身／後214」「海を見たことはあるが、これほどの大きな／前106」「上役→郡奉行／前72」「えげれす→イギリス／後223, 後232」「えげれすの→イギリスやフランス／後223」「越中守→越中／前104」「江戸から報→江戸から急報／後154」「江戸の者→江戸の旗本や御家人／後45」「江戸を出て→江戸を発って／前176」「江戸よりはるか離れた→徳川家は昔から／前88」「遠慮はなさいますな→遠慮をしてはなりもはん／後26」「おいです→おられます／前123」「王政復古の号令が発せられたのだ→翌日「王政復古」の号令が発せられ、新政府が樹立したのだ／後151」「往復→行き来／前91」「大きな味方→頼もしい味方／後147」「大久保は理想の国家をめざそうとしている。彼が理想とする国家は、とてつもない強国と、具体的だ。→大久保が目指そうとしている理想の国家は、とてつもない強国だ。／後224」「大塩平八郎の乱が起こった→大塩平八郎が乱を起こした／前39」「おかしいであろう→おかしゅうございます／前174」「お方→お人／前16」「お方なのじゃ→お方じゃ／後65」「お金→お錢／前43」「奥方がいらっしゃる→決まった方がおられる／前124」「おくって→送って／後45」「おこりがくる頃じゃろ→悪さが始まる頃だ／前205」「起こるんややろ→起こりますやろ／後85」「長稚児→小稚児／後185」「幼ない→幼い／前41, 前49」「和尚からもな→無参禅師からも聞いておる／前105」「おしやすんやろと→するもんやと／後84」「おーすとリア→オーストリア／後217」「恐れ→畏れ／後44」「おそれながら→恐れながら／前126」「お血筋→血筋／前168」「おつもり→つもり／後33」「弟御→弟御の久武さま／前59」「お通り→お目通り／前115」「おとこはん→殿方／後167」「音がする→者がいる／後48」「男たち→長州兵／後55」「男たち→男衆／後139」「おととし→昨年／前152」「女子ん人はおいやどした→女子はんがいはりました／後84」「お祖父→祖父／前93」「おつとめ→お勤め／前110」「男前がよろしオス→男前どす／後83」「お殿さま→お殿さん／後69」「お願いします→お願いしますきに／後112」「お齒黒をした男たち→お齒黒をした男どもや女官／後163」「おはん→吉之助どん／前56」「オペラ座→ル・ペルティエ劇場／後230」「お前→おぬし／後122, 後171」「お前を行かせれば→お前の言うとおりにすれば／前178」「お前のことは、いろんな者に聞いておった→お前の書いたものは読んでいた／前105」「お任せ→お預け／後250」「思う→なる／後46」「思った？→思った／前126」「思った→感じたことだ／後56」「思ってますんや→思ってます／後84」「思われてるんは→思われとるんは／後84」「お許しいただけんなら→許してくれはらんのやったら／後168」「お由羅騒動というのは→お由羅騒動は迷信がからみ／前65」「及ぶはずはない→及ぶべくもない／後169」「お読みくださった→お受けとめくださった／後148」「和蘭陀→オランダ／前154」「阿蘭陀語→オランダ語／後14」「下りっくれ→降りっくれ／後108」「おりょうという彼の妻だ→妻のお龍だ／後

118]「下りる→降りる／後108, 後113]「おるにへーまっけど→おるにはおられますけど／後84]「おろしあ→ろしあ／前163]「オロシア→ろしあ／前19]「女→嫁／前81]「女は見たことはなく→女といえ／前126]「解決出来る女→解決がつく女／後167]「海草→海藻／後204, 後211]「嘉永六年→嘉永六年(1853)／前87]「顔んつくり→顔のつくり／後84]「かかりまへん→かからへん／後83]「かかるわ→かかる／前150]「学者兼発明家である→兵学者兼西洋砲術家の／後66]「賭ける→懸ける／前22]「かじって→嚙って／前177]「数が少ないどすなあ→あんまりおりまへんなあ／後84]「方→お方／前162]「肩→右肘の筋／前39]「刀→刃／後51]「かなでる→奏でる／後254]「金→銭／前52, 前74, 前96, 前97, 前99, 前134, 前150]「金→船／後34]「金がかかちよっ→新しかことが詰まच्चよっ／後259]「金の成る木→金の生る木／前153]「我慢出来ない→我慢ならない／後70]「髪を乱し, 血走った目をした一蔵がいた。「一蔵さん。どうなさった。さあ, こちらへ]「満佐子がすすめても, あがろうとはしない。「一どん, どうした。こんな夜に」奥で書見をしていた吉之助が姿をあらわすやいなや, 吠えるように彼は告げた。「今, 沙汰があった。父上が遠島を申しつけられた]「な, なんと」→正助が姿を現すやいなや, 吠えるように吉之助は尋ねた]「大久保先生が遠島を申しつけられたというのは本当か」／前61]「からから→カラカラ／後66]「ガラス→硝子／前90, 前187]「彼→奴／後46]「彼→志士／後48]「彼ら→空気／後248]「彼らは慶喜→将軍／後140]「可愛い→愛らしい／後9]「変わられたじゃろう→変わられたとじゃろう／後47]「考えている→思い出していた／前135]「考えてはるけれど→考えたはるけど／後85]「考えてはるんでっしやろろなア→考えたはるんやろうか／後85]「頑張っくれ→働いてくれ／後201]「かんざし→簪／前190]「寛大にお取り扱ください→寛大なご処遇をたまわり／後215]「機械→器械／後136]「鬼気迫るものであった→真に迫っていた／前158]「官職→官位／後36]「官僚→役人／前24]「気後れしてしまう→息を呑む／前15]「菊池さあ→菊池さん／後18]「来島殿殿を狙って生け捕りにすつとじゃ→来島殿を狙え。まずは来島殿じゃ／後59]「来た者→来た使い／前181]「吉之助を制した→桂は吉之助を制する／前56]「吉之助にも気さくに声をかけ→吉之助を一晩中話さず／前58]「吉之助→正助は吉之助／前]「吉之助→薩摩の一行／後119]「吉之助さま→吉之助さまの／前99]「気にくわなか→気にくわん／後138]「絹の→高価な／後195]「帰藩→帰京／後30]「帰藩→帰国／後50]「生真面目で知られる→徳川家に忠義を尽くす／後44]「決まって→あって／前127]「今日→翌日／後148]「京まで出てきたうえに, →副総督となり京まで出てきた茂昭は, 吉之助に／後65]「キョウ ヤ ウガミショーラ→キユウ ヤ ウガミショーラ／前201]「恭順→忠誠／後198]「京やて→京かて／後85]「京の市中に運び込み, →京の町に運ぶぞ。／後61]「嫌い抜いている→嫌い抜いておる／後40]「キンチク竹→キンチク／前14]「禁裏に向けて大砲をはなったりするのだ→禁裏に向けて大砲をはなったりする／後114]「くうやくわず→食うや食わず／前71]「莖→芋／前177]「葉→毒／前170]「崩れ落ちた→頹れ落ちた／後58]「ください→おくれやす／後168]「くださるはずです→くださるはず／前48]「喰って→食って／前161]「国入り→お国入り／前109]「国元→国許／前89, 前95]「首を切って→首を落として／前59]「熊本→肥後／前159]「くるというので, →きて／後200]「くれたなら→おられたなら／前94]「くれへんさかいおますからね→くらはりますさかいね／後85]「軍隊の訓練→兵の演習／後210]「軍力→兵器／後74]「形式的に→形だけ／前138]「結成した→徴募した／

後198「原因は→のは／前168」「牽牛花→牽牛花（朝顔）／前202」「元号になる→元号に改まる／後153」「研修生→練習生／後99」「ケンモン→ケインムン／前195」「高価な琉球上布→珍しい琉球の上布／前137」「高官→彼ら／後246」「皇城→東京の方角／後261」「交替に行く者で→交替なり／後160」「郷中→郷中仲間／前77」「こうなったら→こう言ったら／後71」「孝明天皇の死→孝明天皇の崩御／後147」「故郷の者→故郷の幼なじみ／前180」「ここに→江戸から／後172」「御三人をか→三人か／後88」「御子息→ご子息／前124」「御書藏→御書物藏／前112」「god→GOD／後255」「ことになり→建前であり／前102」「郷中に通うようになる→郷中で先輩たちから教育を受ける／前17」「ご英邁→英邁／前141」「ご器量ご見識といい→ご器量といいご見識といい／後19」「このの→西洋の／後203」「後妻→後妻の園／後187」「五千→四千五百／後159」「こちら→まわり／後132」「こちらのもんにすれば→手なづければ／後228」「こと→一念／後49」「ことがなかですから→ことはなかで／前107」「ことに→ことを／前149」「子ども→ちっちゃい／前9」「子ども→稚児／前22」「子ども→子／前233」「子どもたち→子／前38, 前42」「子どもであった→子どもたちだったのである／後51」「五年間にわたり→三年間にわたり／前75」「この中では→この中には／後112」「ご本人→本人／後19」「コマ→駒／後12」「米倉→米蔵／後192」「込めて→こめて／前118」「こよう→きもんそ／後90」「こられたのか→こられた／前30」「五両→十両／前101, 前150」「これ→これだけ／後49」「これに→幕府を飛びこえて天皇からの密勅を受けたことに／前184」「殺せば→血を流せば／後175」「こん体はおはんにあずけた→こん身はおはんたちにお預けしもんそ／後257」「こんたび→こたび／後45」「ご才覚→才覚／前168」「五十人←二十人／後249」「ご城下→お城／前22」「ご上洛→率兵上洛／後17」「最後にはかなり強引にことを起こす。→徳川家は諸侯の一員となり, 官位一等を降し, 領地を返上し, 陛下に罪を謝し奉るべきなのだ。／後150」「今夜→今日／前209」「西郷殿のこと→薩摩の西郷／後143」「最大の譜代大名→譜代筆頭／前177」「さいなんでいるのが→さいなんでいることを愛加那は／前217」「嵯峨→嵯峨, 伏見／後50」「酒を→酒ばかり／後117」「させる→立て／前114」「させられ→を命じ／後87」「殺害者→犯人／後32」「薩摩→錦江湾／後33」「薩摩→鹿児島／後33」「薩摩→九州の薩摩／後50」「薩長側→薩長方／後159」「薩摩では→薩摩は／前62」「薩摩の藩士→薩摩藩士／後17」「薩摩藩→薩摩藩士／後170」「薩摩屋敷から→薩摩屋敷から使い／前181」「砂糖きび→黒砂糖／後26」「佐幕派→天皇は親幕／後133」「さん→さま／前80」「三十里→三十里（約百十八キロ）／後7」「三代前の妻→二代前の嫁／前200」「三方をこう置き→三方を前に／前59」「しいやおいて→しといて／後84」「しいやいます→したまります／後85」「直目付→直目付の／後48」「しからん→しからむ／前186」「時間→余裕／後156」「次期将軍へと→次期将軍にと／後61」「敷地→広い敷地／後226」「至急→火急／後48」「指示→便り／後4」「四書五経→『四書五経』／前18, 前24」「実は→吉之助はいま, /前136」「実力者→ユカリッチュ／前232」「していない。すぐに→せず, すぐ／前203」「しはる→する／後84」「自分→わし／後143」「自分の結婚の礼→結婚の礼／後98」「自分も→川村も／後234」「自分を不憫がり, 芋のふかしたもの→自分に, 芋／後47」「しほり取るだけしほり取る→搾り取るだけ搾り取る／前194」「しましたね→しましたがね／後69」「しますんや→するんぞす／後84」「しまはるから→しもてはる／後85」「しみる→沁みる／前89, 前98」「実験工場である→実験を行っている／前152」「死なないで→死なんといて／前183」「赦免→迎いの船

／後40」「宿舎→官舎／後236」「棕櫚→枇杷／後191」「証拠には→証拠に／後93」「勝算→成算／後225」「勝算があった→怯まない／後90」「尚氏という者が王でございもした→尚という王が治めておりもした／後215」「上人→町人／後138」「使用人他には→下僕の熊吉や女中の他には／後237」「成就院に住職に→成就院に／前176」「集成館のガラス器→実験場でつくられた硝子器／前132」「従者→行列／後44」「十七貫→十七貫(約六十四キロ)／前126」「住民の四分の一がさむらいかその家族という→住民の四分の一と／後188」「商工→大蔵／後231」「商人→職人／前132」「象徴→盟主／前172」「初夏→春／前217」「性悪な芸妓にひっかかり→性の悪い芸妓にひっかかりはって／後83」「諸藩→諸侯／後13」「しれまへんが→しれへんけど／後85」「清→清国／前20, 前53」「心岳寺まいり→『心岳寺まいり／前25」「審査→裁判／後32」「人種→人種ども／後156」「新政府に立ち向かう→天皇に刃向かう／後198」「新選組→壬生浪の名で恐れられる浪士組／後43」「新選組という者→浪士ども／後43」「新天皇→少年天皇／後151」「心配なさるな→心配めさるな／後113」「数百人→千五百人／後97」「すぐの→すぐ下の／後237」「すごして→過ごして／前125」「進める→詰める／後116」「吸った→食べた／前177」「捨てていた→奪われた／後246」「素晴らしい→輝かしい／後200」「すべての禁裏の門→禁裏のすべての門／後151」「する→申し上げる／後215」「政権→政治の主導権／後152」「聖断→判断／後81」「世子→ご世子／前174」「生徒→兵士／後260」「成長した者が出るのは父親が死んでからだ→残りの二人は一歳と二歳であった／前87」「青年教育のための塾→青少年教育のための仕組み／前17」「征伐すべし→伐つべし／後222」「製鍊→大砲鑄造／前152」「精鍊所→反射炉／前89」「切腹させられ→腹切らされ／後99」「総督→先鋒／後58」「絶対的な英雄→すべてを備えた英雄／前172」「絶対→藩命でござす／後39」「切腹させられ→処刑され／後44」「禪→座禪／後146」「前日→直前／前」「そうしながら→話しながら／後219」「想像→覚悟／後88」「そげな→そげな。／前126」「そこへ→そこ／後83」「そして→しかし／後59」「卒業生→生徒／後239」「外貿易→海外貿易／前169」「ソテツ→蘇鉄／前197」「そないどす→そうどす／後84」「そのうち三人は→三人の子どもが死んだのは／前65」「そのためにも→そうならないためにも／後76」「その日を境に、→再び／前123」「その→そん／前56」「祖母→外祖父／後213」「祖母→祖父母／前21」「そややけど→せややけど／後85」「空恐ろしく→そら恐ろしく／後110」「それを→それから／後51」「存知→存じ／前115」「そんな時奪った金は皆で山分けしても構わん。→そんな時そこで、／後153」「そんな→そんなに／後138」「タイクーン→タイクーン(将軍)／後162」「態度→決断／後35」「台風→颶風(台風)／前221」「台風→颶風／前227」「太平記→『太平記』／後57」「内裏→天朝／後157」「高く、→高かった。／後62」「出しいや→出しては／後84」「出した→提出した／後149」「戦うこと→戦／後111」「叩き切る計画をたてた。それを知った→亡き者にすると言った。だが、／前178」「戦わせ→闘わせ／前114」「たたずむ→佇む／前201」「立たぬわ→立たん／前112」「脱出→島抜け／後34」「立てば→起てば／前180」「煙草の包みを言付けることを忘れない→大久保に煙草の包みをことづけた／後123」「たばねて→束ねて／後139」「他藩→尾張／前138」「ために→ためなら／後148」「頼りになる方→やはりあのお方／前124」「誕生→ご誕生／前174」「チェスト→チェスト→エイヤーエイヤー／前195」「ちかい→近い／前153」「ちやちい→ちやちな／後180」「ちゅう→ゆう／後84」「ちゅつ→ひと口／前177」「“忠・孝”→“忠孝”／前140」「中国路→山陽道／前102」「中年の百姓男→弥吉は相当の年／前74」「朝

敵になってしまう→朝敵になったままなのである／後134」「長州→長州派／後48」「長州の言い分じゃろうよ→長州の言い分じゃろう／後49」「長州の者たち→長州者／後46」「長州の者たちも地上戦を経験したことはないはずだ→長州の者にも地上戦は初めてのはずであった／後51」「長州萩→長州山口／後157」「長州ん→長州の／後84」「長州んお方でっしゃろ→長州のお方どす／後83」「長征→征長／後92」「朝鮮は目ざわりで失礼な国→今の朝鮮は目ざわりで無礼な国／後228」「長男→嫡男／後130」「徴兵→徴集した兵／後219」「着いた→着く／後134」「ついて→就いて／前52」「ついてきて→従いてきて／後143」「通じぬ→わからぬ／後7」「使った→続った／前97」「着いて→就いて／前91」「通訳など→通詞たち／前157」「遣い込んでおる方をうちは何人も知っておりますのや→遣い込んでる方が何人もいほりますわ／後83」「次の將軍はここから→次の將軍は御三卿か御三家／後140」「次の日→翌日／後118」「次の日であった。朝→翌／前122」「着く→就く／前74」「つくい直した→つくり直した／前151」「着くなり斬って殺す→国の外に出るなり斬り捨てる／前185」「つくろっても→繕っても／前214」「つけず→就けず／前50」「伝えるのだ→伝えよ／前20」「妻→妻が／前193」「出→山育ち／前189」「である方→ともあろう方／後12」「体→体裁／後240」「提出した→提出された／後148」「出来なかった→しなかった／後33」「出来ぬのだと→出来ぬことから／後54」「出来る→出来ましょう／前174」「出来る→来られる／後10」「出来もはん→出来んと／後149」「手下→手先／後44」「でしょうな→でしょう／後89」「でしょうね→でしょうがね／後67」「ですよ→です／後26」「天子さまのことなどほとんどの者が知らず→京の天子さまのことは最近認識しつつ／後170」「到着→殺到／後55」「討幕→倒幕／後55」「特別→格別／前26」「手加減→手かげん／前71」「である→だ／前92」「ているのである→る／前114」「出来ん→許されん／後161」「ですよ→ですな／後70」「出ていないどころか、→出ていない。／後40」「天皇への直訴→天皇への攘夷決行の直訴／後97」「どいつ→ドイツ／後219, 後220, 後226」「東京にある→東京にあるのちの／後206」「洞窟の中で→洞窟を出て／後261」「倒幕→討幕／後147」「討幕の密勅→討幕の「密勅」／後147」「同盟→こと／後112」「遠くで→遠くから／後152」「徳川→徳川家／後172」「どこん藩→どこの家中／後83」「年かさ→年嵩／前24」「閉じ籠められてきた→閉じ込められてきた／後164」「どすからね→やさかい／後83」「どすねえ→どすなあ／後144」「どすわ→どす／後84」「土地柄→国柄／後159」「途中から→この年の九月から／後153」「どないぞ→どうぞ／後83」「との会见だ→と会見した／後87」「齢→年／前89」「閉じられていた門→ふだんは閉じ切りだった門／後54」「土地→肝心の田んぼ／前138」「嫁いで→来て／前79」「怒鳴った→吐き捨て／後14」「殿さま→お殿さま／前87, 前90, 前93, 前95, 前98, 前103, 前105, 前129, 前157, 前163, 前166」「殿さま→薩摩守さま／前182」「どへん→どない／後85」「とらえ→捕らえ／後18」「捕われ→囚われ／後48」「とり入った→取り入った／後20」「取り継いで→取り次いで／前176」「取引き→取り引き／前132」「どれほどの子ども→どれほどの子／前21」「中→最中／前130」「長かこと→長らく／後168」「なかった→ない／前143」「亡くなった→崩御した／後133」「なくなどというのは→泣くなどは／前30」「なさって→組まれて／後27」「なぜなら藩というのは→なぜなら、攘夷は幕命によるもの、藩というのは／後74」「なった→なる／後215」「なっているが、→なっている。／前102」「なだめて→宥めて／後174」「なってますなあ→なってます／後85」「七十二万石→七十七万石／前102」「何か→芋／前177」「何か→何と／前186」「何

が出来る→何ほどのことが出来る／後151「何も言わないのに→そう気が進まないようです／後116」「納屋→土間／前78」「ならぬこと→ならぬと決心した／前181」「なられた→なった／前162」「斉彬の跡→斉彬の後／前181」「なりはったはんは→なりはったんはどなたです／前182」「なる→なった／後187」「なるの→なったと／後49」「狎れ狎れしく→馴れ馴れしく／後98」「なろうとしていた→なっていた／前54」「なんと→えらい／後84」「何の力があいもんか→何の力もなかと／後149」「にぎり→握り／前52」「日本一→日本最強／後58」「二万二千坪→二万五千坪／前113」「人間→方面／後64」「ぬぐって→拭って／後148」「寝た→まどろんだ／前206」「年→年齢／前78」「のいる→と共に／後231」「農夫→百姓／後236, 後240」「逃れられる→免れられる／後149」「のぼる大きさになり, →のぼり, /後97」「はいた→穿いた／後210」「凶りごと→謀／後189」「爆音→銃声／後156」「八十里→八十里(三百二十キロ)／後256」「はっきりとした→きりりとした／後113」「幕内で→幕府へ／後43」「幕府→旧幕府／後170」「幕府側の人間→幕府の高官／後68」「幕府→将軍／後81」「幕府側→幕府方／後155」「幕府に→幕府には／後68」「始まっています→始まったります／後85」「初めて聞く斉彬の声は, 想像していた→憶えていた声／前104」「八月で→八月の／後21」「八年ほど→三年ほど／前78」「発生した→横浜鎖港を目的として挙兵した／後97」「発せられたのである→発せられることになったのである／後147」「花草→草花／前131」「花畑→御花畑／後117」「花嫁→婚礼／前135」「勿ねたんやなあ→勿ねて回ったもんやから／後84」「はねられた→勿ねられた／後128」「母親→母親の満佐／前126」「歯向かう→刃向かう／後87」「ぱり→パリ／後224, 後230, 後232」「針女→針妙／後214」「藩主→太守／後43」「藩主→藩主父子／後50」「藩主→藩政府／後73」「反省→謝罪／後161」「反対をし→不満をととなえ／後198」「藩の家老である→藩士で斉昭の側近である／前141」「半年→十四カ月／前42」「藩民→領民／前75」「蛮民→後れた者たち／前189」「蛮民→野蛮な者たち／前220」「びいき→最良／後262」「ひかんようにして→ひかんよう, 気をつけて／後168」「引き揚げようとしています→引き揚げていきます／後88」「ひく→挽く／前131」「比較的親の→比較的／前22」「肥後→隣国の肥後／前74」「陽ざし→陽射し／後7」「ひざまずいた→跪いた／前129」「久光の→年来の／後198」「久光の元に→久光のもとに／後196」「久光は→久光には／後32」「美丈夫→偉丈夫／後28」「左斜め前→左／前26」「引越し→引越し／前130」「人→者／前15」「人々は→人々こそ／後221」「一人→一度／後19」「一人一人→ひとりひとり／前87」「雛人形として見たことがある→雛人形もお内裏さまでおなじみがある／後209」「日の本→日本／前123, 前145, 後175」「評判だ→評判を取っているという／前22」「昼から→昼間から／後134」「ひるむ→怯む／後94, 後, 後206」「貧乏人→貧乏武士／後211」「風景→風景や生活／後203」「深川にいったん運ばれ, そこで専門の者が→伊豆から直接仕入れ／前131」「深川も→板がだいぶ／前131」「ふさわしいと思った→ふさわしいような気がした／前186」「ふぜい→風情／前36」「豊前街道に入り, 長崎街道を抜け→熊本小倉に入り／前102」「ふた皮目→二皮目／前96, 後30」「二人→三人／後22」「武器や金→金や武器／後146」「ふだんは→戦場で／前20」「布団→夫婦布団／83」「船出の際→城門を出る際／後160」「冬→秋／前218」「ふらんす→フランス／後230, 後232」「ふらんすなど四ヶ国の軍艦で→ふらんすとめりけんの軍艦に／後46」「別名→正式名(諱)／後188」「紅をつけた頬→薄紅をつけた頬／後154」「砲→旧式砲／後74」「保元・平治の乱以来二百年→保元・平治の乱で武家政権に移り,

その後徳川時代になって二百年／後148「朋輩たちの→朋輩の桂久武／前56」「ほころび→綻び／後207」「欲しい→欲しいのです／前174」「ほとんどは→二人は／前87」「ほれ→惚れ／後76」「滅ぼして→倒して／後150」「本日→昨日／後147」「本当→身辺／後43」「本当に→しんそこ／後47」「本当に→実に／後139」「本名→前名／前126」「毎年→一年おき／前91」「毎年→一年おきに／前123」「前よりも→前と／後58」「前を横切った→街道で／後31」「幕を閉じたのである→ひとまず収束に向かったのである／前68」「負けた徳川の女たち→徳川の御家人の女たち／後195」「優る→優り／前223」「まだ→実は／後51」「まだ油断は出来ない→まだまだ油断はならない／後160」「全く→あまり／前62」「全く挨拶に→挨拶にすら／後216」「「全く西郷にはかなわぬ」と→全く西郷にはかなわぬと、／前156」「待っててええんどすやろ→待たしてもろて、ええんどうやろ／後168」「待ってます→待とります／後168」「まつられる→祀られる／後213」「祭る→祀る／後47」「まひよな→まひよ／前176」「丸太を切って→かろうじて残った板を木取り／前131」「満員→定員／後239」「見せてくれる→運んでくれる／後164」「御台所→後正室／前125」「見立て→診たて／前42」「みてとれる→見てとれる／前229」「水戸の薬→水戸の毒／前170」「みな奇遇を喜び合った→さっそく議論を交あわすことになったが／前180」「見なれた→見慣れた／前126」「みな新政府で→みな軍人か新政府で／後236」「皆の前→皆の面前／後168」「身やて→身やさかい／後167」「妙円寺まいり→『妙円寺まいり』／前25」「見るのは→見ているのは／後191」「みろ→みよ／前177」「民衆たち→民衆／後152」「みんな→つい／後222」「向かい→駆けつけ／後55」「向かいべき→東上すべし／後250」「向かったのだ→向かわせたのだ／後155」「結ばんと→結ぶほかに／後104」「紫になってきた→紫に明けそめて／後56」「命日→祥月命日／前25」「珍しく→珍しい／前189」「もう→もはや／前185, 後51」「申し上げたい→申し上げてくだされ／前139」「もしもし→まことに／後38」「持って→もって／前20」「持って→握って／後80」「元で→もとで／前168」「者→兵／前20」「者→微臣／後211」「者たち→の／前229」「者たち→一行／後204」「者は→者には／後85」「もの→役／前113」「ものなのじゃ→もんじゃ／前210」「糶→それ／前138」「もんべ姿→野良着／前30」「やがて二人の前に菓草園の緑が見えてくる→小石川に来た／前119」「優しさを持ってぬ→優しさが通じぬ／後150」「やてしんどい→でもえらい／後84」「やりきれない思いになってくる→目をとじる／後195」「やりとげた→やり遂げた／後86」「許し→赦し／後50」「やや品のない→御所にしては／後54」「「よい、よい・・・」・・・「なんと素直なお心の人じゃ。聞いているうちに、こちらも楽しくなりますなァ」(20字56行、藤田東湖のどのようなことが楽しいと思うかの間に樺山と西郷の言で西郷が家族といる時の楽しさから斉彬に仕えることの楽しさに代わってきたことを述べている。)→「全く、天下の一大事というのは、こういうことを言うのでしょうか」・・・「今こそ原点に立ち返って、尊皇攘夷をじっこうしなければなりません。(40字27行、中浜万次郎の和睦の意見についての藤田東湖の尊王攘夷論を語る。)／前121-122」「よいのだ→よい／後21」「除ける→避ける／後56」「横切って→過って／前90」「横岳→御岳／前90」「横切ったって→横切ったってんで／後70」「ようじき→もうじき／後85」「慶喜の後を追って→慶喜に随行し／後139」「慶喜のしたことは→慶喜のやろうとしていることは／後129」「呼ばれた→声をかけられた／前130」「嫁さん→お嫁さん／前81」「よりすぐり→選りすぐり／前91」「四十代終わり→四十代の終わり／後240」「四十余人→五十余人／後147」「らち→埒／前152」「陸軍大将の自

分が動けば、全国の兵がついてくるだろう／後250」「良好な関係→親密な関係／後164」「龍馬が語る、亀山社中という名を考えている→後に亀山社中となる／後103」「旅行→遊覧／後228」「老女→世話人／前128」「浪士などというものは→浪士など／後105」「六人の娘→四人の娘／前87」「ろしあ→ロシア／後225」「ろんどん→ロンドン／後223, 後224, 後232」「わが国は…→わが国は夷狄など一歩も踏み込めぬことになっておりますのに、おめおめとこれを許さなくてはいかんとごわんそか。／前120」「わかっておる→わかっている／後215」「わかっていた→見えておった／後49」「我儘→我が儘」／後218」「わからんか→「わからんが→わからんが／後149」「分け与えたのである→すぐに配るのじゃ／後61」「和親条約→日米和親条約／前120」「わたし→私／前127, 前168」「私→わし／前144」「私→うち／前176」「私もそろそろ→そろそろ私も／前13」「私が→私も／前187」「渡すため→お渡しするため／後215」「わたら→うちら／後166」「わらぶき→かやぶき／後184」「悪企み→悪巧み／前17」「を→とは／前77」「を言うの→なの／前103」

10 句読点, 改行 「(初出) → (前編or後編) / (前or後ページ)」の順に記載。

「担いで→担いで, /前35」「圧されたのか→圧されたのか, /前38」「そのように→そのように, /前42」「どうして, →どげんして／前95」「後で支払う約束で→後で支払う約束で, /前98」「始まった, 日本史→始まった日本史／前114」「編む作業は→編む作業は, /前114」「守られて斉彬は, →守られて, 斉彬は／前129」「無くなるのか, と思うと→無くなるのかと思うと, /前136」「重鎮となられた。老公→重鎮となられた老公／前144」「失敗したならば, 外国船を輸入するしかないと斉彬は→失敗したならば外国船を購入するしかない, 斉彬は／前153」「(改行) という内容である。／前184」「(改行) 月照はもはや吉之助にとって／前185」「言葉はよく聞けば, →言葉は, よく聞けば／前190」「その夜→その夜, /前202」「じゃってこいがよくある→じゃって, こいがよくある／前215」「(改行) 年貢を納めた残りの黒砂糖を, . . . /前220」「(改行) 吉之助は餌木の形をきちんと絵にして. . .」「違っとな→違っ, とな／後13」「主上のまわりは, 奸臣ばかりで本当の→主上のまわりは奸臣ばかりで／後49」「奸臣らによって, 自分たちは→奸臣らによって自分たちは／後49」「男がつれない女に考えるようなこと→つれない女に男が思いを寄せるようなもん／後49」「はじめとする気に入りの→はじめとする, 気に入りの／後50」「泰平が長く続いた, →太平が長く続いた／後51」「長州も会津も桑名も→長州, 会津, 桑名／後51」「(改行) 尊皇攘夷を声高に叫んだ三条実美ら／後52」「一方→一方, /後57」「燃え続け→燃え続け, /後60」「(改行) 吉之助は歯ぎしりしたくなってくる。／後61」「(改行) 「これを町に運ぶぞ. . .」／後61」「(改行) つくづく子どもの頃からの, . . . /後63」「(改行) それにしても, 長州というのは. . . /後64」「(改行) それならばと尾張の徳川慶勝を総督に, . . . /後65」「橋本左内といった→橋本左内といった, /後66」「雄藩連合→“雄藩連合” /後69」「なくなったので→なくなったので, /後69」「言いなりはならない。言いなりにはならないし, /後70」「藩で山分けに→藩で, 長州を山分けに／後71」「(改行) あなたはご存じないようですが／後71」「ロンドンタイムズ→「ロンドンタイムズ」／後73」「(改行) 討幕を唱えながら／後74」「あれほど吉之助が画策していた→吉之助があれほど画策していた／後74」「言ってくれている, →言ってくれている／後91」「(改行) その月の末に, 糸は嫁いできた／後95」「行く手を阻まれた。行く手を阻まれ, /後98」「とどろかせちゅう→とどろか

せちゅう、／後100」「中岡慎太郎も→中岡慎太郎も、／後100」「龍馬が木戸と一緒に→龍馬が、木戸と一緒に／後108」「二百六十年幕府など→二百六十年、幕府など／後109」「そいやったらちくと長州に→そいやったら、ちくと長州に／後110」「それどころか次に長州が要求した軍艦も、調達した→それどころか、次に長州が要求した軍艦も調達した／後110」「(改行) 三田尻は後に防府と呼ばれる／後112」「ここに誇らしく二人の異国帰りの男と、異国からの→ここに誇らしく、二人の異国帰りの男と異国からの／後112」「出兵命令は拒否すると、すでに薩摩は→出兵命令は拒否する、と薩摩は／後113」「皮肉というものであったが吉之助には→皮肉というものであったが、吉之助には／後113」「三月といっても山の中→三月といっても、山の中／後120」「突然にだ。→突然に、だ。／後128」「いったいいつ→いったい、いつ／後130」「ナポレオン三世は、最近友好の証だといって見事なアラビア馬を→ナポレオン三世は最近友好の証だといって、アラビア馬／後132」「寵愛し、頼りにしてきた→寵愛し頼みににして／後133」「(改行) 久光は快諾してくれた。／後134」「(改行) ここまで考えて吉之助は／後146」「じゃっどんおいは→じゃっどん、おいは／後150」「入っているのかとも不満だ→入っているのか、それも不満だ／後158」「土佐のみならず幕府側と→土佐のみならず、幕府方／後159」「門を閉じ幕府軍を→門を閉じ、旧幕府軍／後159」「幕府の老中稲葉正邦の城がだ→幕府最後の老中稲葉正邦の城が、だ／後159」「大坂城から逃げ出した→大坂城から夜、逃げ出した／後159」「徳川に長年仕えてまいりましたただの剣士→徳川家に長年仕えてまいった、ただの剣士／後172」「後妻の園もらっていたが、子をなさぬうちに→後妻の園もらっていたが子をなさぬうちに／後187」「(改行) 吉之助は島を出た後／後187」「大久保といった下級武士たち→大久保といった、下級武士たち／後196」「京に天皇というお方が、お住まいに→京に、天皇というお方がお住まいに／後209」「東京行幸の途中農作業をご覧になりたい→東京行幸の途中、農作業を見たい／後210」「(改行) 早朝、吉之助が見に行くと／後217」「起こっちゃっとはなげかわしか→起こっちゃっとは、なげかわしか／後218」「そいやつとに日本を離れちゃっとは→そいやつとに、いつまでも日本を離れちゃっとは／後220」「(改行) 朝鮮伐つべし、という気運は／後223」「台湾も朝鮮も、清国も→台湾も朝鮮も清国も、／後233」「なだれをうって、鹿児島へと帰還→なだれをうって官を辞し帰還／後236」「父の次弟、吉次郎の未亡人→父の次弟吉次郎の未亡人／後237」「見渡せば、父を追って→見渡せば父を追って／後240」「遠ざけていましたが江藤は→遠ざけていましたが、江藤は／後243」

※「愛加那」について

「あの大男に寄り添う自分が見えた。／前200」「それにこの島には、別の神がおります。…その神が菊池主に別の誓いをしると・・・私と夫婦の契りをかわせとおっしゃっています／前211」「旦那さまはやがてこの島を出て、国を動かす人になりましょう／前213」「この右脚がいつか消えるような気がするのです。私の大切な菊次郎の右脚が／前233-234」「(改行) 思えば若い頃の大久保は／後163」

※『林真理子さんが語る、西郷どん！』（「本の旅人 2017年1月号 (No.255) p054-062 2016年10月8日）に記載された鹿児島での「歴史小説を書く」の講演の中から、歴史小説や「西郷どん！」に関わる部分を列挙

・歴史小説を書く作家は男性が多い。政治の部分が長い。→人間を書きたい。「西郷どん」っ

て可愛い名前。

- ・海音寺潮五郎が素晴らしいものを書いている。→島津斉彬の存在→西郷の一生は主君への愛に貫かれている、男が男に惚れるという、純粹で激しい愛に貫かれている。→西郷が子どもの時に1回会わせることにした。
- ・愛加那との本当の愛情を知り、子どもをなし、幸福な日々を過ごすことで、国への思いとは別に、家族を持つ、人を愛し人に愛されるという、これほど素晴らしいことを奄美で知った。
- ・歴史小説ではないので、きちんと年代を追いながら書くというのではなく、やはり最初の場面で、読者が飛びついてくるような書き出しにしたいと。→最初に奄美大島の家族の話、美しい島の娘愛加那が産んだ菊次郎、菊草という兄と妹の話を、冒頭で使うことにした。
- ・菊池と名乗ったのには御所の門に付いていた菊のご紋からではないか、想像だが。
- ・菊次郎の命名について、西郷や愛加那に代わり、兄の富堅に「いずれあなたは薩摩に帰ってそちらで奥さまを貫うだろうから、太郎はそちらにつけたらどうか」と言わせる。
- ・「ローマ人の物語方式」での編集
- ・『ミカドの淑女』下田歌子(実践女学校創設)→編集者の言葉「・・・その密室の中で行われている会話は、もう作家の裁量なんだよ。ここが作家の腕の見せ所なんだよ」
- ・篤姫との出会い設定。西郷がお興入れの道具を全部揃えたは定説。
- ・西郷が雄藩連合から倒幕になったのはいつか?→勝が、もう幕府なんかどうだっていいじゃないかと、西郷に言ったとき。慶喜は、自分が国を売ろうとしているのではないかと気づき、すべてが嫌になって逃げたんじゃないか。
- ・江戸の町に火をつけたり、狼藉の限りを尽くす赤報隊と西郷の関係は?
- ・ウソは書かないが、ここまででは作家の創造力で許していただきたいという境界線を引いて、密室の中では、作家の自由に、好きなように書かせていただくことで、やり遂げたいと。

課題と今後の検討

林真理子の初出(「本の旅人」連載分)と新装版を、項目別に比較することで、一人の著作者が、一人物の人名の変更や誤記の訂正をしながら推敲に推敲を重ね、発表していることがはっきりした。それとともに、史料としての記録にない部分や、伝えられる歴史の常識との整合性を如何にとるのか、著作者としての独創性をどう表現していくのか、難しい判断が必要であることも垣間見える。

しかし、現行教科書では、歴史用語として「西南戦争」と表記しているのに、「西南の役」とあえて記載していることや、これを原作としての中園ミホの脚本による大河ドラマでの、その時代の身分制社会を度外視するようなシーンを、本当にそうであったかの如く理解してしまう視聴者が存在することなど、改めて時代考証の厳密な適応も歴史小説の範疇とする以上不可欠なのではないか。その上で、史料としての記録のない場面での著作者の独創性は発揮されるべきではないか。

林真理子は、講演の中で「歴史小説ではないので、きちんと年代を追いながら書くというの

ではなく」ということも述べており、今後歴史小説への各小説家のスタンスや丁寧な時代考証に基づく映像化が、脚本家や制作者にも望まれるのではないか。

[使用した資料]

- ・林真理子著「西郷どん！」（角川書店 「本の旅人」2016年2月号～2017年9月号）
- ・林真理子著「西郷どん！上製品版 前編」（角川書店 2017年11月）
- ・林真理子著「西郷どん！上製品版 後編」（角川書店 2017年11月）
- ・石井進 [ほか] 著「詳説日本史 改訂版」（山川出版社 2008年3月）

